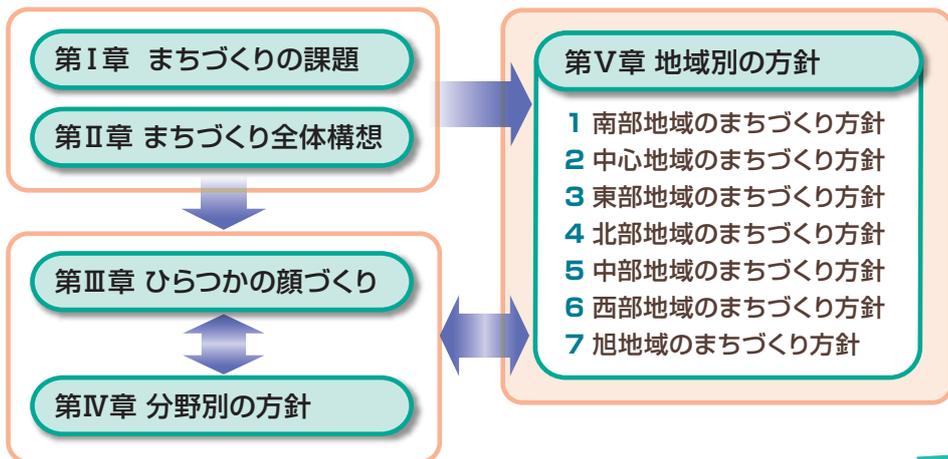


第V章 地域別の方針

本市を7地域に区分し、各地域の特徴や課題を捉え、目標と将来像、分野別の方針、魅力づくりの方針を示します。

●本章では、第I章のまちづくりの課題と第II章のまちづくりの全体構想を踏まえ、また、第III章のひらつかの顔づくり

の顔づくりや第IV章の分野別の方針と整合する地域別の方針を示します。



●地域と地区の区分

- ・地域の成り立ちや生活圏、暮らしなどの特性に応じて、本市を大きく7地域に分け、各地域について方針を示します。
- ・7つの地域は、市民が身近に「まち」を捉える基礎的な広さとして、小・中学校区をもとに設定した17の地区により構成され、必要に応じて地区単位での方針を示します。



各地域の構成

(1) 地域のあらまし

「位置・面積」「人口・土地の利用」「地域の主な資源」について示します。

(2) 地域の主な課題

地域の主なまちづくりに関する課題を示します。

(3) 地域のまちづくりの目標と将来像

地域の主な課題を達成するための「まちづくりの目標」を示します。また、目標を踏まえた地域の「将来像」を示します。

(4) 地域の分野別の方針

「道路と交通」「住まい環境」「景観やみどりと水辺」の分野別の方針を示します。

(5) 地域の資源をいかした魅力づくりの方針

本市の価値を高めるために、地域の主な資源をいかし、にぎわいや交流を創出するための魅力づくりの方針を示します。

※まちづくり方針図

(4)と(5)の参照図として「まちづくり方針図」を示します。

※地域主体の取組みイメージの例

まちづくりの目標の達成に向け、地域が主体となって取り組む事業や活動を例示的に紹介します。

【地域別の方針の設定にあたっての基本的考え方】

● 各地域の特徴をいかした魅力あるまちづくり

- ・本市の将来都市像を実現するため、それぞれの地域においては、地域の特徴をいかした魅力あるまちづくりを進めます。
- ・地域の特徴に応じたまちづくりを行うことにより、全体として本市の価値を高め、広域にアピールしている持続可能なまちづくりをめざします。

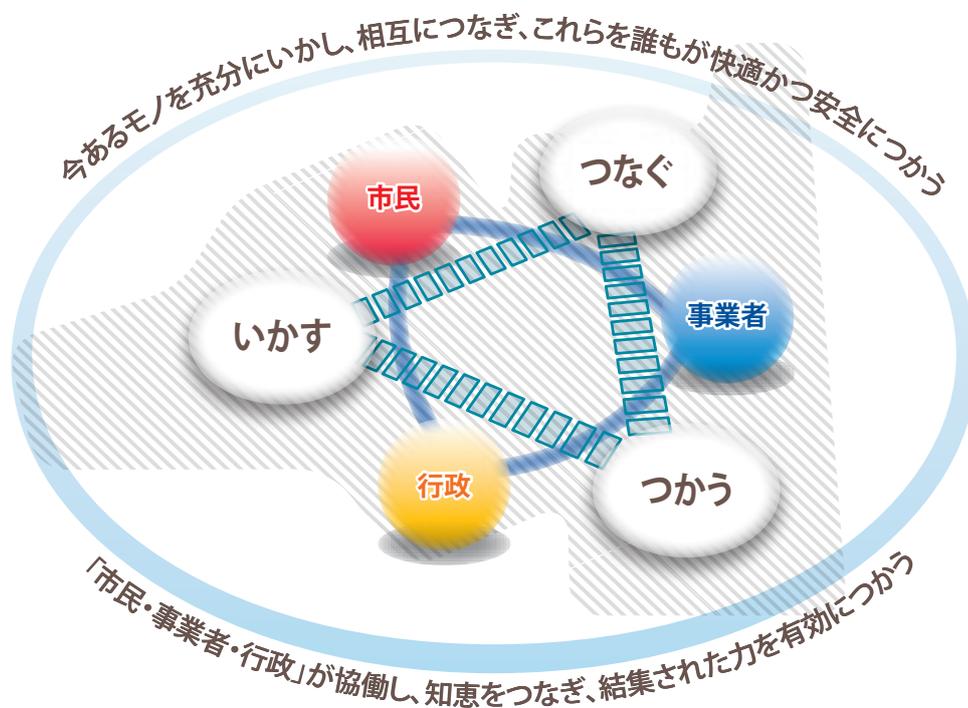
● 「いかす・つなぐ・つかう」を基本としたまちづくり

- ・持続可能なまちづくりをめざすため、「いかす・つなぐ・つかう」をこれからの地域ごとのまちづくりを進めるにあたっての基本とします。地域の暮らしを充実し、魅力あるものにしていくため、今あるモノを十分にいかし、相互につなぎ、これらを誰もが快適かつ安全につかえるまちづくりを進めます。

● 「市民・事業者・行政」の協働によるまちづくり

- ・地域に住み働く「市民・事業者・行政」が協働して、知恵をつなぎ、結集された力を有効につかえるようにします。
- ・地域のまちづくりの実現には市民参加が重要です。市民自らがまちづくりを身近な問題として捉え、関心を持って参加していけるようなしくみづくりを進めます。

「いかす・つなぐ・つかう」まちづくりのイメージ

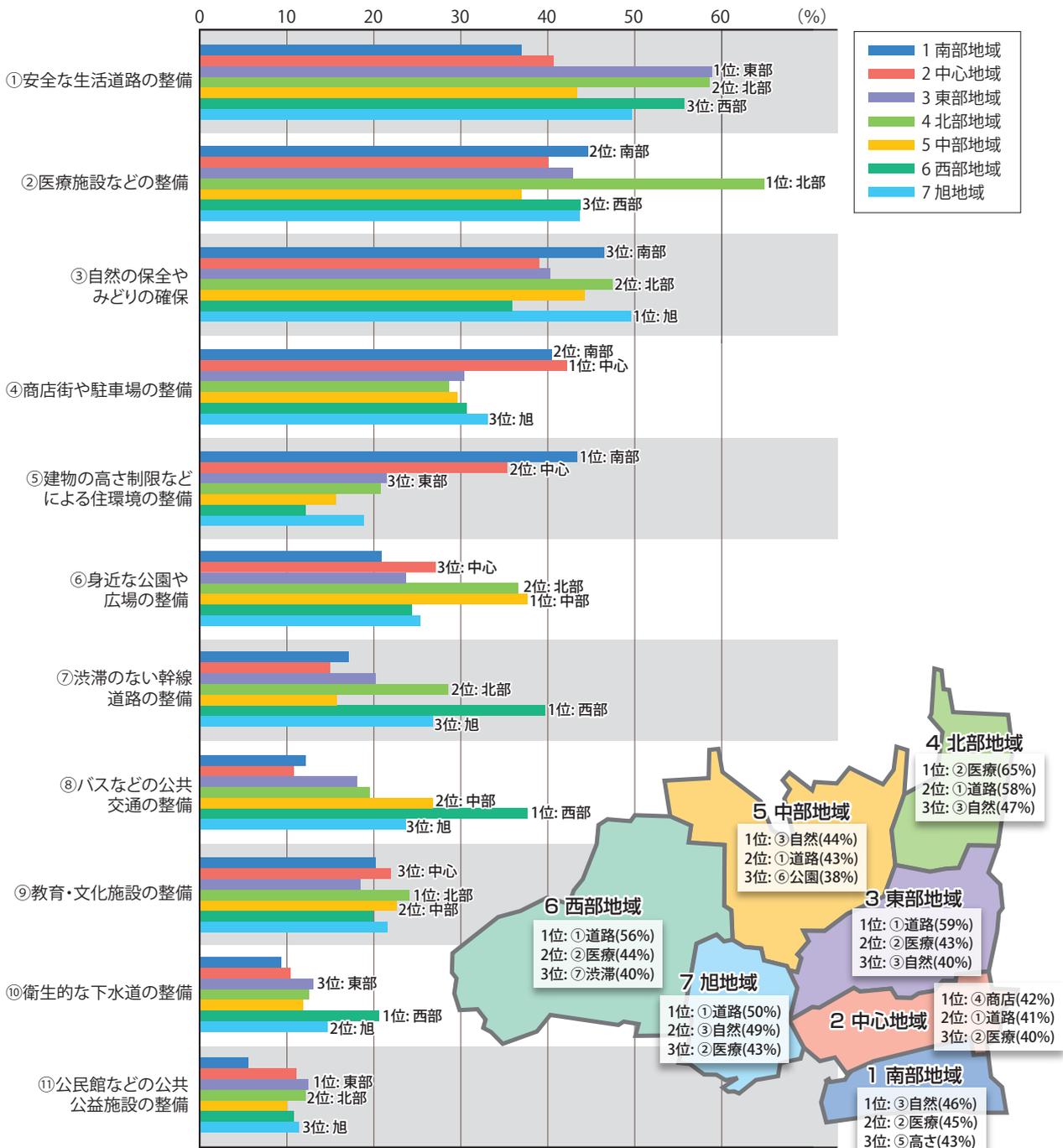


【市民意向の反映】

●市民アンケート調査

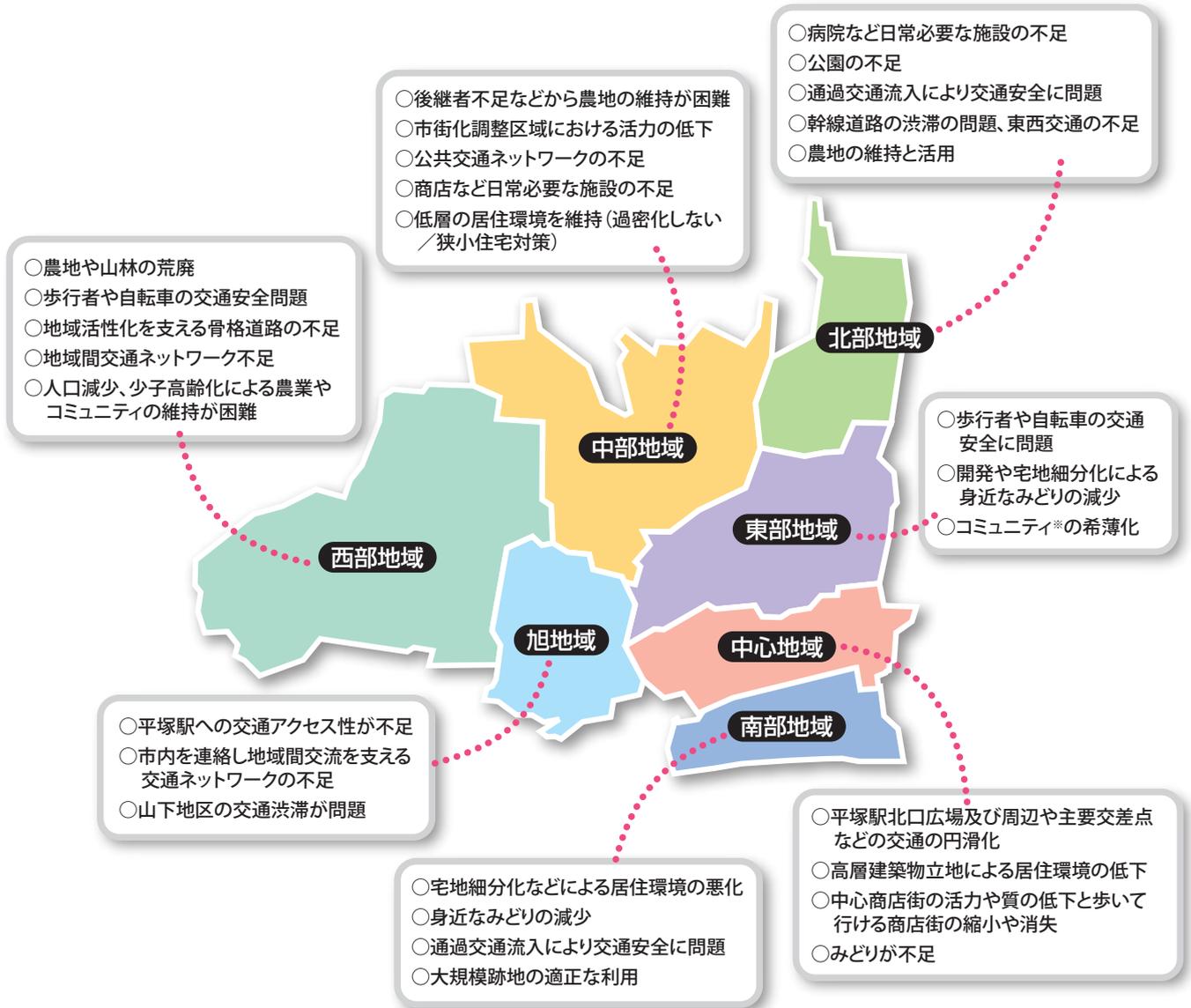
・平成18年12月に市民アンケート調査※を行いました。
このうち、日常生活に関係の深い「住まい周辺で特に力を入れて欲しいこと（3つまで）」の結果は以下のとおりです。

ここでは、その回答（「①安全な生活道路の整備」など11の項目）について、それぞれの地域ごとの割合をグラフで示します。また、地域ごとに見て希望の割合が多かった上位3つの項目を図に示します。



●地域別懇談会

- ・平成19年10月～12月に、7地域で3回ずつ地域別懇談会*を行い、参加頂いた市民の方から、地域のまちづくりに関する様々なご意見やご提案を頂きました。
- ・主なご意見は、以下のとおりです。



【各地域の将来像】

- ・市民アンケート調査*や地域別懇談会*での市民意見を踏まえた各地域の将来像は次のとおりです。それぞれの将来像のように、地域の魅力を各地域で形成します。



V.1 南部地域のまちづくり方針

(1) 南部地域のあらまし

●位置・面積

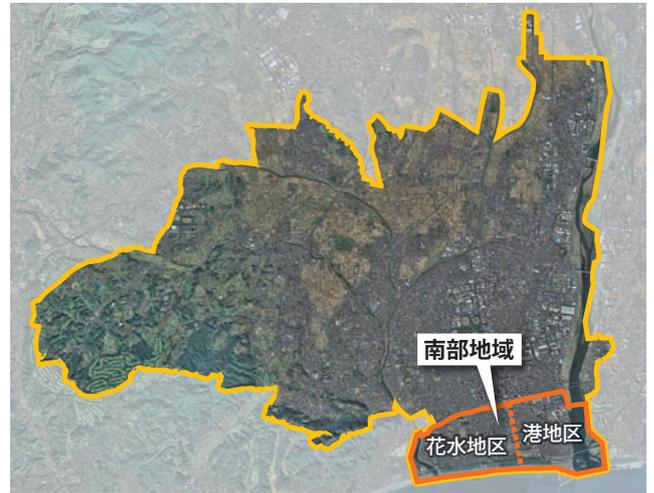
- ・南部地域はJR東海道本線の南側に位置し、平塚海岸、相模川、花水川の水辺に囲まれています。かつては平塚町と須馬町に属し、昭和7年4月に平塚市となりました。
- ・地域の面積は544.8haで全市の約8%を占めます。うち花水地区は279.7ha、港地区は265.1haです。
- ・花水地区は花水小となでしこ小学校区、港地区は港小学校区が含まれます。

●人口・土地の利用

- ・人口は全市の約16%を占めます。花水地区は横ばい傾向、港地区は増加傾向にあります。（平成17年国勢調査）
- ・市街化区域^{*}は、相模川などの水域以外の地域全体に及び、成熟した雰囲気のみちとなっています。
- ・海や川に面しており、全体的に松などが残る、落ち着いた環境のある住宅地となっており、教育施設が多いのが特徴です。
- ・平塚駅周辺では商業地が形成され、古くから港町と共に栄えた須賀港への道路や西海岸マリロードなどの沿道には地域に密着した商店街が形成されています。
- ・昭和20年の空襲から市街地を復興するため、戦後すぐに戦災復興土地区画整理事業などを実施しており、港地区を中心に地域の約30%が新しいまちとなりました。



平塚海岸（手前が新港）



●地域の主な資源

- ・平塚海岸は、古くから漁業が盛んでしたが、平成3年に湘南ひらつかビーチパーク^{*}が誕生し、平成12年に海洋レクリエーションにも対応できる新港が整備され、漁業だけでなくマリレジャー^{*}も盛んに行われるようになり、一年を通じていろいろな人でにぎわう拠点となりつつあります。
- ・平塚海岸には相模川から花水川まで約4.8kmの砂丘と松林が続いています。
- ・扇松海岸通りの路上のクロマツは通称「扇の松」と呼ばれ、本市を代表する景観資源の1つに数えられます。



扇の松

(2) 南部地域の主な課題

● 道路と交通の課題

- ・ 国道134号は慢性的に渋滞しており、生活道路に自動車が流入しています。このため渋滞と自動車の流入を解消することが課題です。

● 住まい環境の課題

- ・ 戸建ての多い住宅地のなかで中高層マンションの立地や宅地の細分化が見られ、景観やみどりなど、良好な居住環境の保全が課題です。

● 地域の資源をいかすための課題

- ・ 平塚海岸や地域の象徴となる松をいかすため、その保全が課題です。
- ・ 平塚駅南口広場から、ひらつかの海を感じるができるよう、海に向かう通りをいかすことが課題です。



国道134号の渋滞



海岸への通り

(3) 南部地域のまちづくりの目標と将来像

まちづくりの目標

- 落ち着きと質の高さを誇る住まい環境の形成
- 松など、身近にみどりや花が豊富にあるまちの形成
- ひらつかの海を中心とした広域観光の創出

将来像

落ち着きと質の高さを誇る住まい環境と 海をいかした新たなにぎわいのあるまち

潮風と広い空を感じる南部地域は、松林や別荘地の面影を伝える質の高い開放的な街並みが広がり、海の魅力や楽しさを求めて多くの人々が訪れる新たなにぎわいのあるまちをめざします。

(4) 南部地域の分野別の方針

① 道路と交通

● 道路一般

- ・ 国道134号の慢性的な渋滞に対応するため、段階的な整備を進めます。
- ・ 平塚海岸秦野線など、未整備となっている都市計画道路の段階的な整備を進めます。
- ・ 安全で円滑な生活交通の確保のため、既存の道路空間をいかし再配分することにより、歩道や右折レーンを確保するなど、効率的で効果的な道路整備を進めます。
- ・ 平塚駅南口は、駅周辺の駐輪対策などとあわせて、海に向かう玄関口にふさわしい広場整備を進めます。



平塚駅海岸線（なぎさプロムナード）

● 歩行者空間、自転車利用環境

- ・ 平塚駅海岸線（なぎさプロムナード[※]）などを始め、歩行者や自転車利用者のため、安全に通行できる空間の確保や交通安全施設[※]などの環境整備を進めます。
- ・ 自転車利用を進めるため、また、街なか観光の交通手段にもなるよう、既存の道路空間から自転車走行空間を創出し、自転車ネットワークの形成に努めます。中心地域（JR東海道線の北側）など、他地域とつなぐことも重視します。

② 住まい環境

● 住宅地

- ・ 地域全体に大きく広がる住居系市街地は、質の高い低中層住宅地として、居住環境を保全します。必要に応じて地区計画[※]の導入を検討します。

- ・ 住宅が密集し、道路などが不足しているところは、居住環境や防災性を高めるため、生活道路や下水道施設などの公共施設整備を進めます。

- ・ 大浜地区は、居住環境や防災性を高めるため、生活道路などの公共施設整備を土地区画整理事業[※]により進めます。

● 商業地・業務地

- ・ 平塚駅周辺は本市の南の核にふさわしい魅力ある商業施設やサービス施設などの立地を誘導し、土地の高度利用を進めます。

● 近隣商業地または沿道市街地

- ・ 地域生活に密着した身近な商店街は、商店街自体の維持と魅力づくりに向けた取組みを検討します。

● 工業地

- ・ 相模川沿いの工業系市街地は、工場外周部の緑化を誘導すると共に、工場の生産環境を維持するため隣接する住宅地との調和を進めます。

● 公共公益施設

- ・ ひらつか市民活動センター、南部福社会館、みなと子どもの家、地区公民館などの公共公益施設は、地域の様々な活動を支える拠点として、誰もがつかいやすいように施設の柔軟な運営と管理に努めます。



南部福社会館

③ 景観やみどりと水辺

● 代表的な景観

- ・ 海岸からの富士山の眺望を大切に、広々とした砂浜や松林がつながる開放的な海岸景観を維持及び保全します。
- ・ 南口広場や平塚駅海岸線（なぎさプロムナード[※]）は、海に向かう玄関口にふさわしい、潮風を感じる魅力的な空間の創出に努めます。
- ・ 別荘の面影を受け継ぐ閑静な住宅地は、地区計画[※]の導入などにより、うるおいある景観形成に努めます。

● みどりと水辺空間、ネットワーク

- ・ 平塚海岸にある松林や砂浜は、貴重なみどりや自然景観として、レクリエーションや交通環境との共存による適正な維持及び保全に努めます。
- ・ 松林周辺の風致地区[※]は、市街地の動向や周辺の住環境との調和に配慮した見直しと適正な管理を行い、良好な住環境の形成に努めます。
- ・ 相模川の河口干潟は、相模湾奥部で唯一の干潟環境であり、シギ・チドリ類、カモメ類に代表される水鳥が

多く、相模湾の干潟生物の重要な生息場となっているため、保全に努めます。



桃浜公園

● 公園や広場

- ・ 桃浜公園や小波公園^{さざなみ}の整備にあたっては、都市計画公園として、その位置の適正な配置に努めます。
- ・ 身近な公園や広場は、地域ニーズに応じ、また、地域住民の参加により、誰もがつかいやすく親しみのある空間づくりを進めます。

(5) 南部地域の資源をいかした魅力づくりの方針

● ひらつかの海をいかす

- ・ 平塚海岸から相模川または花水川に至る海辺と川辺は、水に親しむことのできる空間です。ビーチパークや新港、さらに中心地域の馬入ふれあい公園等のレクリエーション施設を相互につなぎ、憩いの場となるよう、歩行者や自転車利用者のためのネットワーク化を進めます。また、平塚海岸は、より良い海辺を守るため、砂浜の侵食対策や砂浜の養浜[※]、松林の保全を進めます。

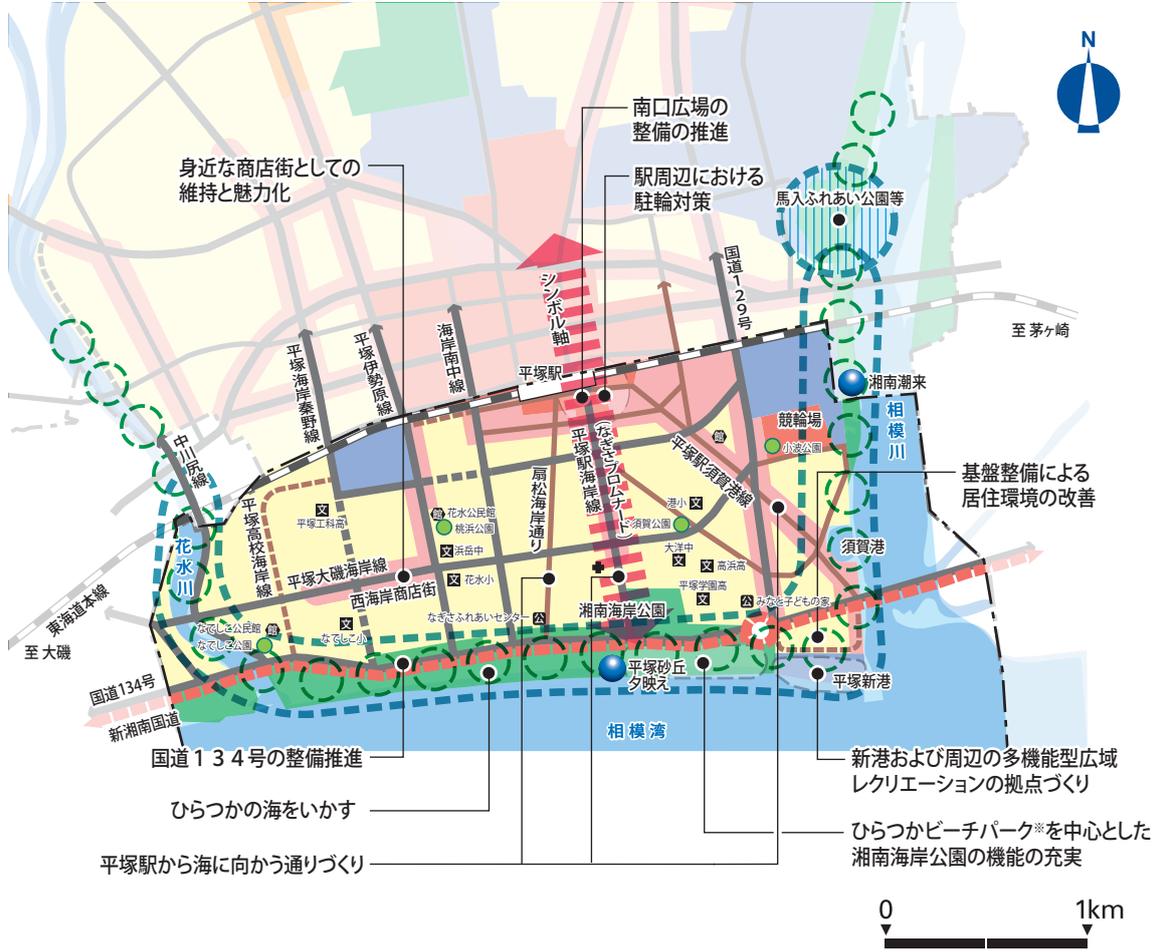
● 平塚駅と海をつなぐ通りづくり

- ・ 平塚駅と海をつなぐ、平塚駅海岸線（なぎさプロムナード）、平塚駅須賀港線、扇松海岸通りにおいては、駅から海につながるそれぞれの特性をいかした通りづくりに努めると共に、沿道の街並みと通りの景観が調和するまちづくりを進めます。



平塚駅須賀港線

南部地域のまちづくり方針図



南部地域

地域の魅力づくりに向けて ～地域主体の取組みイメージ～

地域のまちづくりの目標と将来像の実現に向けたこれからのまちづくりは、様々な主体が各々の役割を果たす協働の取組みであり、地域自らが行うことが重要です。ここでは、地域の資源をいかした取組みを進めるため、地域主体の取組みイメージの例を示します。

●例1: 質の高さを誇る住まい環境を持続する

落ち着きと質の高い住まい環境を持続するためには、宅地の細分化の防止や敷地内のみどりの維持、適切なゴミ出しなどといった地域主体のルールがあることが望まれます。

このためには、一定の地区において、事業者も含め住民同士で目標とする住宅地や街並み景観のあり方を勉強し、まちづくり計画とこれに沿った具体的なルールをつくることが考えられます。



住宅地（松風町）



平塚海岸

●例2: 海岸をいつまでも美しく

平塚の海岸をいつまでも美しく保っていくことが望まれます。

このためには、砂浜の清掃など、市民の協力による活動が大きな力となります。さらに海岸の良さをもっと知ってもらうためのイベントも、愛着を高める上でも効果的です。

事業者の協力や市の支援などにより、活動の輪を広げていくことが望まれます。

●例3: ひらつかの海への誘い

ひらつかの海は、今後、さがみ縦貫道路の開通を契機に、広域から多くの人々が来訪することが期待され、こうした人たちに、ひらつかの海の良さを満喫してもらうことが望まれます。

このためには、行政だけではなく市民や事業者が協働して、魅力的で楽しい案内板やちょっとした休憩所を設置し、四季の花々によるおもてなし、海やまちを案内するボランティアガイドの存在などがあると来訪者の心をつかみ、リピーター増につながるものと考えられます。



公共サイン（堤町）

V.2 中心地域のまちづくり方針

(1) 中心地域のあらまし

●位置・面積

- ・中心地域はJR東海道本線の北側に位置し、本市の玄関口である平塚駅北口から北にのびる駅前大通り線（フェスタロード）を中心に、東は相模川、西は金目川まで広がる地域です。かつては平塚町と須馬町に属し、昭和7年4月に平塚市となりました。
- ・地域の面積は635.6haで全市の約9%を占めます。うち富士見地区は216.5ha、崇善地区は419.1haです。
- ・富士見地区は富士見小学校区、崇善地区は崇善小と松原小学校区が含まれます。

●人口・土地の利用

- ・人口は全市の約15%を占めます。富士見地区は減少傾向、崇善地区は増加傾向にあります。（平成17年国勢調査）
- ・市街化区域^{*}は地域全体に及び、本市で最も高密度な土地利用がされています。
- ・平塚駅北口広場と駅前大通り線を中心に、東西方向に様々な商業施設や業務施設、サービス施設が高密度に集積しています。
- ・自動車関連などの大規模な工場用地があります。昭和30年代を中心に企業が進出し形成されました。
- ・昭和20年の空襲から市街地を復興するため、戦後すぐに戦災復興土地区画整理事業などを実施しており、地域の約28%が新しいまちとなりました。



馬入・光と風の花づつみ



●地域の主な資源

- ・平塚駅周辺においては、かつて「商都平塚」と呼ばれた中心商店街が形成されており、紅谷町パールロードを始めとしたショッピングモールがあり、日本有数の七夕まつりが開催されます。
- ・市役所周辺には、市役所を始め、中央公民館・勤労会館・福祉会館・教育会館・青少年会館などの公共公益施設や図書館・美術館・博物館などの文化施設が集積しており、公共施設ゾーンを形成しています。
- ・相模川沿いには、ひらつかアリーナや馬入サッカー場、多目的広場からなる馬入ふれあい公園と約3haの馬入・光と風の花づつみ（花畑）があります。
- ・本市を代表する歴史景観を有するものとして、宿場町としての歴史が残る旧東海道、そして平塚八幡宮と大門通りなどがあります。



紅谷町パールロード

(2) 中心地域の主な課題

●道路と交通の課題

- ・鉄道やバス、中心商店街などの利便性を高めるため、歩行者や自転車利用者の交通環境を高めることが課題です。

●住まい環境の課題

- ・中高層建築物の増加や沿道サービス施設の立地などの一方で、日常必要な店舗の数が少なくなっており、快適な居住環境が求められています。また、工場環境も低下しており生産性の向上が課題です。
- ・中心商店街は活力の低下が見られます。各種の都市機能の充実と共に、回遊したくなる魅力づくりや歩行環境の向上、本市の玄関口にふさわしい景観づくりが課題です。

●地域の資源をいかすための課題

- ・馬入ふれあい公園等の利用を高めるため、平塚駅方面からの公共サイン^{*}の充実が課題です。
- ・歴史的に由緒ある通りをもっといかす必要があります。歴史性をいかした通りづくりが課題です。



湘南スターモール



平塚駅周辺の建物集積

(3) 中心地域のまちづくりの目標と将来像

まちづくりの目標

- 中心商店街の活性化と明るく開放的な玄関口の形成
- 安心安全の快適な住まい環境の形成
- 歴史と文化がただよう、市民交流の盛んな魅力ある通りの形成

将来像

様々な人が集い、住み、働く、 平塚の顔としてときめくまち

街道の歴史を底流に平塚のにぎわいを担う中心地域は、魅力に溢れた商店街、活力ある工場群、そして落ち着いた住宅地が調和した平塚の玄関口を形成し、笑顔とときめきのあるまちをめざします。

(4) 中心地域の分野別の方針

① 道路と交通

● 道路一般

- ・平塚駅北口広場は、交通結節性を高めるため、整備改善を進め、バス交通の環境向上や駐輪・駐車場の整備などに努めます。
- ・八幡神社土屋線など、未整備となっている都市計画道路の段階的な整備を進めます。
- ・安全で円滑な生活交通の確保のため、既存の道路空間をいかし再配分することにより、歩道や右折レーンを確保するなど、効率的で効果的な道路整備を進めます。また、主要交差点の改良や交通安全施設*などの環境整備を進めます。

● 歩行者空間、自転車利用環境

- ・歩行者や自転車利用者のため、安全に通行できる空間の確保や交通安全施設などの環境整備を進めます。
- ・平塚駅と多くの公共公益施設が集積する市役所周辺をつなぐ道路においては、歩道のバリアフリー*化を進めます。このなかで国道1号の立体横断施設については、バリアフリー化に向けて必要性やあり方について関係機関との協議調整に努めます。

- ・自転車利用環境の向上のため、街なか観光や日常の交通手段としてのレンタサイクル*機能の拡充を検討し、自転車ネットワークの形成に努めます。



国道1号の立体横断施設（宮の前歩道橋）

② 住まい環境

● 住宅地

- ・富士見地区などの住居系市街地は、戸建てを中心とした低中層住宅地として、良好な居住環境を形成します。
- ・平塚駅周辺は中高層住宅地を基本としつつも、低層部分は商業やサービス施設とし、にぎわいの連続性の確保や周辺居住者の利便性の向上などにつながるよう配慮します。

- ・住宅が密集し、道路などが必要なところは、居住環境や防災性を高めるため、生活道路や下水道施設などの公共施設整備を進めます。

● 商業・業務地

- ・平塚駅周辺は、様々な人でにぎわうよう商業や業務、各種のサービス施設の立地誘導に努めると共に、文化施設の充実などにより魅力ある回遊空間の創出に努めます。

● 近隣商業地または沿道市街地

- ・地域生活に密着した身近な商店街は、その維持と魅力づくりに向けた取組みを検討します。

● 工業地

- ・相模川沿い、総合公園南側などの工業系市街地は、工場外周部の緑化を誘導すると共に、生産環境の充実と産業機能の高度化に努めます。住工混在地域は、その解消を進めつつも地区計画*などを活用し、工業系土地利用に配慮した住環境の改善に努めます。
- ・大規模な工場や店舗の閉鎖、また、こうした施設の市外移転などが予定されている土地は、周辺の土地利用も含め立地環境を多角的に評価し、必要に応じて土地利用転換を検討するなど、適切な施設配置や計画的な土地利用の誘導を総合的に進めます。

● 公共公益施設

- ・平塚市民センターや中央公民館、地区公民館などの公共公益施設は、地域の様々な活動を支える拠点として、誰もがつかいやすいように施設の柔軟な運営と管理に努めます。
- ・見附台周辺地区においては、にぎわいや交流を形成する拠点を整備します。



見附台広場

③ 景観やみどりと水辺

● 代表的な景観

- ・平塚駅北口広場と駅前大通り線（フェスタロード）は、うるおいとやすらぎを感じることのできる平塚の玄関口として、明るく開放的な景観づくりとみどりの美しさを実感できる空間づくりを進め、平塚八幡宮の杜への眺望を保全します。
- ・中心商店街では、店舗デザインの誘導やポケットパークなどの魅力的な憩い空間を創出し、親しみとにぎわいのある商業空間づくりに努めます。
- ・平塚八幡宮の参道としての歴史をいかした大門通りの修景や高麗山の眺望を保全し、宿場町の歴史が感じられる旧東海道の街並みの創出を進めます。
- ・市役所を中心とした公共施設ゾーンは、平塚の景観モデルとなるよう統一感のあるデザインと積極的な緑化を進めます。

● みどりと水辺空間、ネットワーク

- ・相模川と金目川の川辺や相模川の河川敷においては、親水空間をいかし、みどりと水辺のネットワークづくりに努めます。
- ・馬入緑道は、市役所周辺と相模川をつなぐうるおいの空間としていかします。



馬入緑道

- ・馬入ふれあい公園や馬入・光と風の花づつみ（花畑）などは、人々が集い、やすらげる場として、誰もが親しめ、楽しむことができる空間づくりを進めます。

● 公園や広場

- ・見附台公園や八幡山公園は、周辺の施設整備にあわせ、誰もがつかいやすく親しみのある空間づくりを進めます。
- ・身近な公園や広場は、地域ニーズに応じ、また地域住民の参加により、誰もがつかいやすく親しみのある空間づくりを進めます。

(5) 中心地域の資源をいかした魅力づくりの方針

● 馬入ふれあい公園等の利用の推進

- ・水辺のふれあい拠点である馬入ふれあい公園等については、平塚駅からの案内性の向上に努めます。また、馬入・光と風の花づつみ（花畑）での市民による一層の植栽を支援し、できるだけ多くの人々が様々な関わりをもってもらおうよう努めます。

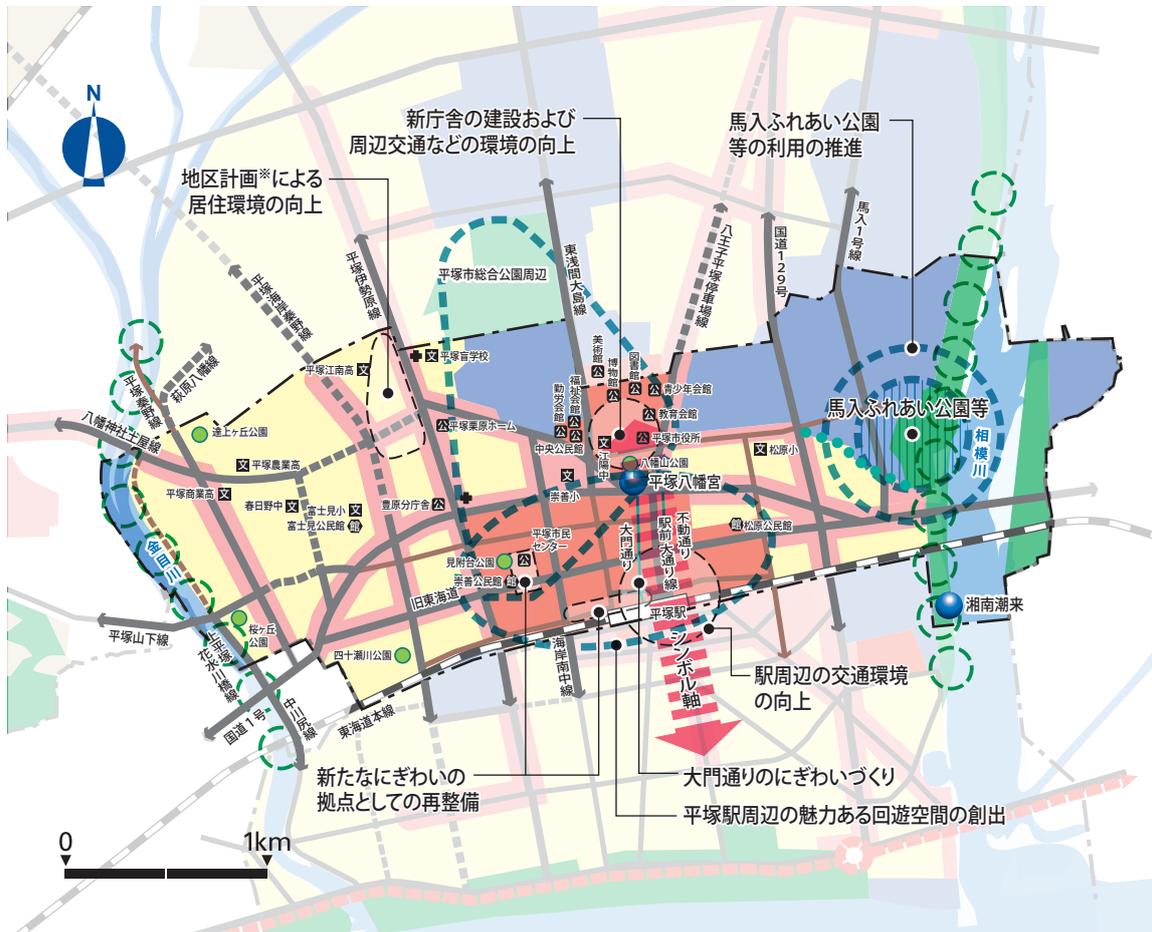


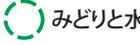
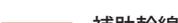
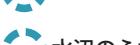
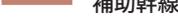
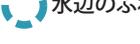
馬入ふれあい公園

● 通りのにぎわいづくり

- ・旧東海道・大門通り・不動通りなど、歴史的に由緒ある通りについては、その歴史性をいかした修景づくりやにぎわいづくりを検討します。
- ・駅前大通り線・大門通り・不動通りは、平塚駅と公共施設や文化施設などの集積する公共施設ゾーンをつなぐ重要な通りであるため、にぎわいの環境づくりに努めます。

中心地域のまちづくり方針図



	住宅地		幹線道路		みどりと水辺のネットワーク
	商業・業務地		幹線道路(未整備)		みどりと水辺の活用拠点
	近隣商業地または沿道市街地		補助幹線道路		水辺のふれあい拠点
	工業地		補助幹線道路(未整備)		平塚八景
	緑地・自然系用地		コミュニティ道路*		近隣公園
			主な公共公益施設		学校
			公民館		主な病院

地域の魅力づくりに向けて ～地域主体の取組みイメージ～

地域のまちづくりの目標と将来像の実現に向けたこれからのまちづくりは、様々な主体が各々の役割を果たす協働の取組みであり、地域自らが行うことが重要です。ここでは、地域の資源をいかした取組みを進めるため、地域主体の取組みイメージの例を示します。

●例1: 駅前大通り線をうるおいの空間に

駅前大通り線は、みどりの美しさを実感できることが重要です。しかし道路上の植栽だけでは限界があります。

このため沿道建物の事業者の協力が望まれ、敷地に植栽を施す方法（緑被率の向上）や、壁面緑化などみどりの見せ方に工夫を施す方法（緑視率の向上）などが考えられます。

建物の形状に配慮し適切な方法でみどりを施し、街路樹と合わせ歩道の両側にみどりが創出されると歩行者にやすらぎやうるおいを与えます。



駅前MNビルの公開空地



住宅地（平塚四丁目）

●例2: 安心安全の住まい環境のための活動

安心安全の住まい環境を実現するためには、地域が一体となって問題意識を高め、課題を解決するための活動を始めていくことが望めます。

例えば、バリアフリー*のまちとするため、地域でまち歩きを実施し、点検マップを作成して、関係機関や地域に広く配布することや、防犯と居住環境について地域で積極的に取り組むために自治会など各種団体をいかすこと、さらに、子どものまちづくり教育の充実など、様々なことが考えられ、こうした活動をつなぎ広げていくことが重要です。

●例3: 大門通りを市民交流の盛んな空間に

大門通りは平塚八幡宮の参道ですが、市民交流の盛んな魅力ある通りにすることが望めます。

例えば、商店街と地域の住民が主体となり、市や警察の協力を得て定期的に歩行者天国にし、東海道とは異なる昔なつかしい七夕まつりや平塚市の農産品・海産品市などを開催することが考えられます。

また、看板や灯りの工夫などで、趣ある雰囲気をもたすなど、参道の歴史をいかしていくことが望めます。



大門通り

V.3 東部地域のまちづくり方針

(1) 東部地域のあらまし

●位置・面積

- ・東部地域は平塚市総合公園を中心に北方面に向けて広がる位置にあり、東の相模川、西の鈴川、北の渋田川に囲まれています。かつては大野町に属し、昭和31年9月に平塚市に編入されました。
- ・地域の面積は996.2haで全市の約15%を占めます。うち中原地区は341.5ha、大野地区は654.7haです。
- ・中原地区は南原小、中原小、大原小及び松が丘小学校区、大野地区は八幡小、大野小及び真土小学校区が含まれます。

●人口・土地の利用

- ・人口は全市の23%を占めます。中原地区は横ばい傾向、大野地区は増加傾向にあります。(平成17年国勢調査)
- ・市街化区域^{*}は、地域の約85%を占めますが、宅地化農地^{*}の住宅地化など市街化の進行が見られます。
- ・かつて江戸から中原御殿に向かう中原街道の沿道に形成された中原や真土及び大野などの集落が、少しずつ住宅地の広がりを見せ成熟してきた地域で、市内で最も人口が多い地域です。

- ・八王子平塚停車場線や国道129号沿道は、店舗や自動車関連施設などが建ち並び、沿道サービス系の用途の土地利用が進んでいます。



国道129号

- ・昭和30年代から相模川沿いや海軍火薬廠跡地で大規模な工場用地が形成され、現在、工業系土地利用は地域の4割ほどを占めています。



●地域の主な資源

- ・市民の誇りであり人気のスポットである平塚市総合公園は、昭和59年度に平塚球場、昭和61年度に平塚競技場、そして平成2年度に平塚総合体育館、テニスコート、ふれあい動物園が開設され、多くの人に利用されています。
- ・相模川や渋田川、鈴川には豊かな自然があり、市民の憩いの場となっています。
- ・中原地区には、御林や中原御殿の名残を今に伝える松林や大手道があり、往時をしのばせる碑などが街角に点在しています。



工場群と平塚市総合公園

(2) 東部地域の主な課題

●住まい環境の課題

- ・戸建ての多い住宅地は、近年中高層マンションの立地やミニ開発が進み、身近なみどりの消失や生活道路への自動車の流入などが見られ、良好な居住環境の保全が課題です。
- ・工場と住宅の土地利用の混在により、相互の用途の立地環境に弊害を生じているところがあります。土地利用の整序が課題です。

●地域の資源をいかすための課題

- ・相模川河川敷や沿川には、自然とスポーツを楽しめる空間があり、川に沿って連続して満喫できるようにすることが望まれます。
- ・中原の歴史をもっといかすことが望まれます。住宅地のなかにあることに配慮する必要があります。



相模川河川敷



中原御殿之碑

(3) 東部地域のまちづくりの目標と将来像

まちづくりの目標

- 人気の高い総合公園や渋田川、中原の歴史などの活用
- 身近なみどりの保全による、ゆとりある住まいの形成
- 住宅と工場の相互協力による活力ある生産環境の形成

将来像

総合公園や水辺のある快適な住まい環境と 活力ある生産環境が調和するまち

相模川と渋田川の流れを外縁部とする東部地域は、みどりと水が人と人をつなぎ、活力ある産業と人々の暮らしが調和した働きやすく住みやすいまちをめざします。

(4) 東部地域の分野別の方針

① 道路と交通

● 道路一般

- ・ 湘南新道の国道129号以西への延伸や萩原八幡線など未整備となっている都市計画道路の段階的な整備を進めます。



湘南新道

- ・ 安全で円滑な生活交通の確保のため、既存の道路空間をいかし再配分することにより歩道や右折レーンを確保し、また、真土金目線や八幡・愛甲線は歩道設置するなど、効率的で効果的な道路整備を進めます。

● バス交通

- ・ バス交通の円滑な走行や利便性の向上のため、バス停の環境整備などを進めます。

● 歩行者空間、自転車利用環境

- ・ 歩行者や自転車利用者のため、安全に通行できる空間の確保や交通安全施設*などの環境整備を進めます。
- ・ 自転車利用環境の向上のため、自転車走行空間の創出や自転車ネットワークの形成に努めます。また、バス停周辺において駐輪場の設置を検討します。
- ・ 谷川排水路や真土大塚山公園から渋田川に至る排水路は、上部をいかしたコミュニティ道路*の整備に努めると共に、鹿見堂排水路の整備については関係機関と連携しながら進めます。

② 住まい環境

● 住宅地

- ・ 八王子平塚停車場線、平塚伊勢原線の東西に広がる住居系市街地は、戸建てを中心とした低中層住宅地として、みどり豊かな居住環境を形成します。

- ・ 道路などが必要なところは、居住環境や防災性を高めるため、生活道路や下水道施設などの公共施設整備を進めます。

● 近隣商業地または沿道市街地

- ・ 地域生活に密着した身近な商店街は、その維持と魅力づくりに向けた取組みを検討します。

● 工業地

- ・ 総合公園北側、東浅間大島線沿道、相模川沿いなどの工業系市街地は、工場外周部の緑化を誘導すると共に、生産環境の充実と産業機能の高度化に努めます。住工混在地域は、その解消を進めつつも地区計画*などを活用し、工業系土地利用に配慮した住環境の改善に努めます。

● 公共公益施設

- ・ 大野子どもの家や地区公民館などの公共公益施設は、地域の様々な活動を支える拠点として、誰もがつかいやすいように施設の柔軟な運営と管理に努めます。
- ・ 相模川流域下水道右岸処理場は、上部の有効利用など周辺環境に配慮した環境整備に努めます。



コミュニティ道路 (中原～御殿)

③景観やみどりと水辺

●代表的な景観

- ・市民に親しまれ10万本の木々が植えられている平塚市総合公園は、豊かなみどりを大切に保全します。
- ・渋田川や金目川などは、地域にふさわしい花々や樹木に彩られた河川景観を創出します。
- ・相模川や幹線道路沿いの工場地は、みどり豊かなうらおいある工場地景観を形成します。

●みどりと水辺空間、ネットワーク

- ・川の表情豊かな玉川橋南付近では、水辺の親水空間をいかしたみどりと水辺のふれあいスポットの形成に努めます。
- ・金目川から渋田川の川辺や相模川の河川敷においては、親水空間をいかし、みどりと水辺のネットワークづくりに努めます。

●公園や広場

- ・相模川河川敷は、スポーツやレクリエーション利用ができるように努めます。
- ・身近な公園や広場は、地域ニーズに応じ、また地域住民の参加により、誰もがつかいやすく親しみのある空間づくりを進めます。



真土大塚山公園

(5)東部地域の資源をいかした魅力づくりの方針

●相模川の自然や河川沿いの施設をいかす

- ・相模川においては、桜を始めとする堤防沿いの並木、河川敷や相模川流域下水道右岸処理場上部のスポーツ空間などの魅力づくりに努めます。また、平塚八景の1つである森の前鳥神社を始めとする四之宮の歴史をいかし、相模川の自然を連続して満喫できるよう、歩行者や自転車利用者のための環境整備に努めます。

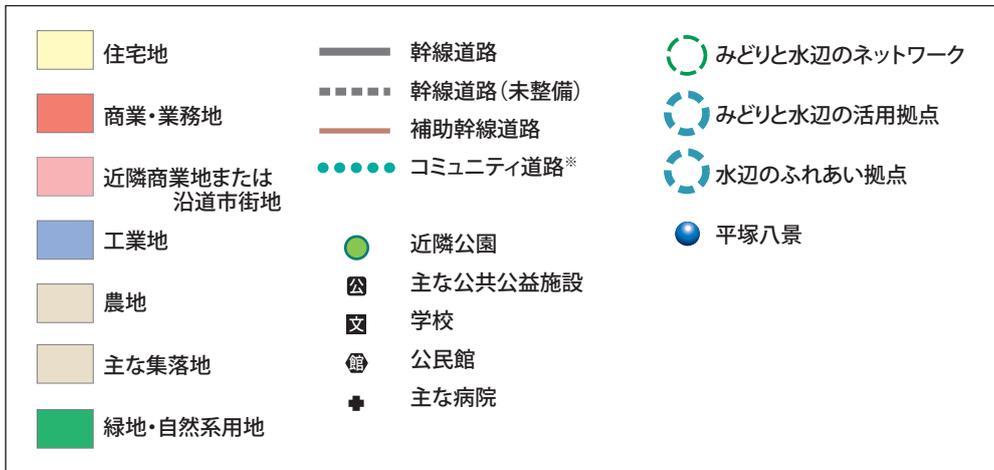


森の前鳥神社

●中原の歴史をいかす

- ・中原地区は、徳川家康由来の中原御殿や中原街道などの歴史資源があり、その歴史性をいかしたみどり豊かな住宅地を形成し、点在する碑などを散策できるよう歩行者にやさしいまちづくりを検討します。

東部地域のまちづくり方針図



東部地域

地域の魅力づくりに向けて ～地域主体の取組みイメージ～

地域のまちづくりの目標と将来像の実現に向けたこれからのまちづくりは、様々な主体が各々の役割を果たす協働の取組みであり、地域自らが行うことが重要です。ここでは、地域の資源をいかした取組みを進めるため、地域主体の取組みイメージの例を示します。

●例1: 玉川橋南の親水性を高める

玉川橋の南は金目川と鈴川の合流地点になっており、川の表情が豊かな2つの水の流れを楽しむことができます。このため親水性をもっと高めることが望まれます。

水辺でのみどりや花の植栽、兩岸の住民同士による交流、川の流れをいかした環境学習などを河川管理者の理解と協力のもとに進めることが考えられます。

管理や清掃も地域が主体的に行い、定期的に事業者からの大勢の手伝いがあるとイベントなどの開催で大にぎわいすることが期待されます。



鈴川親水広場



住宅地(中原)

●例2: 住民同士の助け合いによるみどりの保全

地域内の住宅には、みどり豊かな高木のある屋敷が多くありますが、住民の高齢化や管理費の問題などから維持が難しく、やむをえず伐採してしまう例が見られます。

このような場合は、維持に困っている人とボランティアで剪定できる人がうまく調整できれば多くが解決されると考えられます。

こうした日常の問題を地域の人材でうまく解決でき、必要とする側と提供する側とでうまくつながる組織があると便利です。

●例3: 住まい環境と生産環境の調和

本市の主要な工場は市街地のなかに立地しています。今後も、本市の活力を支える生産環境の維持と良好な住環境との調和が必要で、そのためには住宅と工場の相互協力が望まれます。

例えば、工場ができるだけ緑化を進め、みどりを維持できるよう地域住民が手伝うなど、地域と地域の一員である工場が、協力しあえる方法を工夫していくことが考えられます。

そのためには、交流の機会を増やすことが望まれます。



工場の緑化(西八幡)

V.4 北部地域のまちづくり方針

(1) 北部地域のあらまし

●位置・面積

- ・北部地域は本市の東側で最北部に位置し、東は相模川、西は渋田川と笠張川に囲まれます。かつては神田村に属し、昭和31年9月に平塚市に編入されました。
- ・地域の面積は664.7haで全市の約10%を占めます。うち神田地区は508.7ha、横内地区は156.0haです。
- ・神田地区は神田小と相模小学校区、横内地区は横内小学校区が含まれます。

●人口・土地の利用

- ・人口は全市の約10%を占めます。神田地区はやや減少傾向、横内地区は減少傾向にあります。（平成17年国勢調査）
- ・市街化区域^{*}は、地域の約48%を占め、農地の多い地域です。特に国道129号の西側と地域の北部に、まとまった農地が広がります。
- ・相模川の豊かな水辺や農地に囲まれ、四之宮・厚木線（旧厚木道）沿いに田村や大神の住宅地が連なっています。また、八幡・愛甲線沿いに横内の住宅地が広がりを見せ、国道129号の西側の農地では施設園芸農業も盛んです。
- ・国道129号や伊勢原藤沢線の沿道には、流通・自動車関連施設の立地が見られ、様々な用途の土地利用が進んでいます。



神川橋上空から大山をのぞむ



●地域の主な資源

- ・相模川河川敷に市民スポーツ広場があり、野球場が9面、サッカー場が3面あります。市民のためのスポーツやレクリエーションの場となっています。
- ・渋田川は、沿川自治会により桜の植栽と管理が行われています。
- ・大神地区と相模川対岸の寒川町倉見地区においてツインシティの整備が予定されており、本市の北の核が形成されます。



市民スポーツ広場

(2) 北部地域の主な課題

● 道路と交通の課題

- 相模川東西の交通渋滞の解消や生活道路への自動車の通過交通の流入抑制などによる歩行者や自転車利用者の安全性の確保が課題です。



伊勢原藤沢線（神川橋付近）

● 住まい環境の課題

- 公園など日常生活に必要な生活利便施設の不足への対応、工業団地やごみ処理施設などと周辺住宅地との調和など、良好な居住環境づくりが課題です。

● 地域の資源をいかすための課題

- ・ 渋田川の川沿いで行われている地域の自主的な植栽と管理については、継続と更なる発展が望めます。
- ・ ツインシティは、その拠点性を高めると共に、その整備効果を周辺のまちづくりに波及させることが課題です。



工場群（四之宮）

(3) 北部地域のまちづくりの目標と将来像

まちづくりの目標

- 誰もが安心して歩ける道や、みんなが集える地域生活の場の形成
- 農地や川辺の保全と、富士山や大山の眺望の確保
- ツインシティの整備を契機とした周辺のまちづくりの推進

将来像

水辺や田園のある豊かな暮らしと ツインシティが調和する活気あるまち

相模川と広い田園に囲まれた北部地域は、豊かな自然と力強い産業、そして快適な住宅のたたずまいが共生し、ツインシティの活気が地域全体に波及したいいききとしたまちをめざします。

(4) 北部地域の分野別の方針

① 道路と交通

● 道路一般

- ・伊勢原藤沢線の段階的な整備を進めます。
- ・ツインシティの整備にあわせて周辺の交通環境の改善を進めると共に、相模川橋りょうとなる（仮称）倉見大神線の整備を進めます。また、（仮称）伊勢原大神軸や市内の東西をつなぐ（仮称）平塚大神軸は、道路の位置など具体的な計画について検討します。

- ・安全で円滑な生活交通の確保のため、補助幹線道路である四之宮・厚木線（旧厚木道）や八幡・愛甲線は、歩道設置など効率的で効果的な道路整備を進めます。



八幡・愛甲線（横内団地前交差点付近）

● バス交通

- ・バス交通の円滑な走行のため、平塚駅と北部地域をつなぐバス路線について、バス交通の優先対策やバス停の環境整備などを進めます。また、西方面や伊勢原方面へのバス網の形成に努めます。

● 歩行者空間、自転車利用環境

- ・歩行者や自転車利用者のため、安全に通行できる空間の確保や交通安全施設^{*}などの環境整備を進めます。
- ・自転車利用環境の向上を進めるため、自転車走行空間の創出や自転車ネットワークの形成に努めます。また、バス停周辺において駐輪場の設置を検討します。
- ・渋田川や相模川などの川沿いの遊歩道は、改良や施設整備を進めます。また、歌川分流排水路は、上部利用によりコミュニティ道路^{*}の整備を進めます。

② 住まい環境

● 住宅地

- ・住居系市街地のうち、四之宮・厚木線（旧厚木道）沿いに連なる神田地区は、古くからの戸建てを中心とした低中層住宅地として、みどり豊かな居住環境を形成します。また、八幡・愛甲線沿いに広がる横内地区は、

戸建てを中心とした低中層住宅地として、良好な居住環境を形成します。

- ・道路などが必要なところは、居住環境や防災性を高めるため、生活道路や下水道施設などの公共施設整備を進めます。

● 近隣商業地または沿道市街地

- ・八幡・愛甲線沿道の横内団地付近は、地域生活に密着した店舗や事務所などの立地を誘導します。また、住民同士が交流できる空間の確保などについて検討します。

● 工業地

- ・相模川沿いなどの工業系市街地は、工場外周部の緑化を誘導すると共に、生産環境の充実と産業機能の高度化に努めます。住工混在地域は、その解消を進めつつも地区計画^{*}などを活用し、工業系土地利用に配慮した居住環境の改善に努めます。

● 農地

- ・農地は、食料供給や多面的機能^{*}を有するため、これを維持及び保全し、さらに有効利用するため農業振興策を進めると共に、生産基盤の向上に努めます。また、農業への理解を深めるため、市民による体験の場づくりについて検討します。

● 公共公益施設

- ・東部福祉会館や地区公民館などの公共公益施設は、地域の様々な活動を支える拠点として、誰もがつかいやすいように施設の柔軟な運営と管理に努めます。

- ・環境事業センターは、周辺環境に配慮しつつ施設整備を進めると共に、余熱をいかした周辺整備を進めます。



環境事業センター

- ・相模小中学校は、神田小中学校と隣接しているため、通学区域の見直しを行い、ツインシティへの再配置とその跡地利用も含め適切な土地利用に努めます。

③景観やみどりと水辺

●代表的な景観

- ・相模川沿いにふさわしいみどり豊かなうるおいのある工業地景観を形成すると共に、河川堤防沿いの並木づくりを進めます。また、渋田川などの河川は、地域にふさわしい花々や樹木に彩られた河川景観を形成します。
- ・国道129号沿いの郊外型店舗は、周辺住宅地や農地と調和するようデザインの誘導を進めます。



国道129号（神田高校入口交差点付近）

●みどりと水辺空間、ネットワーク

- ・田園は、農業生産の場であると共に、様々な生き物のすみかにもなっています。身近なみどりや季節感あふれる風景であり、その多面的機能^{*}を果たすよう保全に努めます。
- ・渋田川の桜並木は、みどりと水辺のふれあいスポットの形成に努めます。
- ・笠張川から渋田川に至る川辺や相模川の河川敷においては、親水空間をいかし、みどりと水辺のネットワークづくりに努めます。

●公園や広場

- ・身近な公園や広場は、地域ニーズに応じ、また地域住民の参加により、誰もがつかいやすく親しみのある空間づくりを進めます。

(5)北部地域の資源をいかした魅力づくりの方針

●渋田川プロムナードの延長

- ・渋田川の沿川自治会が進めている渋田川のプロムナード（散策路）化は、川沿いで植栽と管理、そして地域住民の憩いの場となり地域の魅力となっています。こうした活動を支援し、現在のプロムナードをさらに延長できるように検討します。

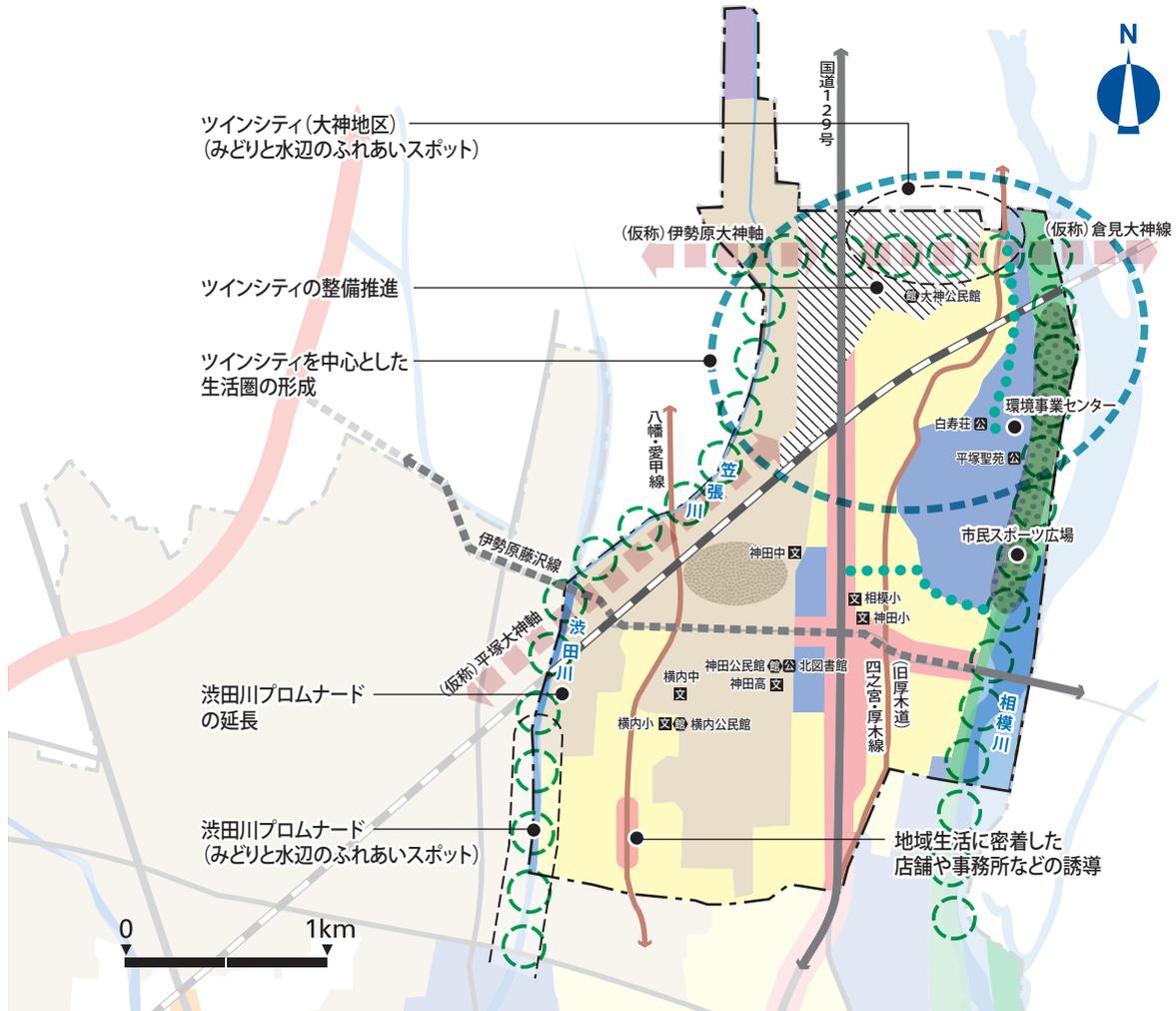
●ツインシティを中心とした生活圏の形成

- ・ツインシティのにぎわいを周辺に波及するため、寒川町倉見地区も含め周辺と一体となったまちづくりを進めます。また、路線バスの再編や自転車ネットワークの形成、公共公益施設の再配置などにより、既存の生活圏を含め、ツインシティを中心としたにぎわいのある新たな生活圏を形成します。さらに、相模川の親水空間をいかしたみどりと水辺のふれあいスポットの創出に努めます。



渋田川の桜並木

北部地域のまちづくり方針図



住宅地	幹線道路	みどりと水辺のネットワーク
近隣商業地または沿道市街地	幹線道路(未整備)	みどりと水辺の活用拠点
工業地	補助幹線道路	市民スポーツ広場
研究・流通業務地	コミュニティ道路※	位置など具体的な計画について検討する道路
農地	近隣公園	
主な集落地	主な公共公益施設	
緑地・自然系用地	学校	
	公民館	

地域の魅力づくりに向けて ～地域主体の取組みイメージ～

地域のまちづくりの目標と将来像の実現に向けたこれからのまちづくりは、様々な主体が各々の役割を果たす協働の取組みであり、地域自らが行うことが重要です。ここでは、地域の資源をいかした取組みを進めるため、地域主体の取組みイメージの例を示します。

●例1: みんなが集える場づくり

主に公民館や学校などが集積しているところを対象に、公園や広場などを確保し、みんなが集える場づくりが望めます。

公園や広場の位置や地域ニーズに応じた利用方法を地域と市との協働で検討し、プランを作成します。整備後の維持や管理は地域で行い、定期的に市から花の苗や苗木を提供してもらい、植え替えを行っていくことなどが考えられます。

そして自分たちの公園とすることを通じて、地域への愛着を高め、住み続けたいまちをさらに検討していくことが望めます。



神田公民館

●例2: 富士山や大山の眺望の確保

みんなで眺望できる場所を確保し、富士山や大山をテーマに楽しいイベントができる企画と活動が望めます。

地域の土地所有者の協力を得て、一定のところで地域が主体となって、写真や絵画コンクールなどのイベントを開催することが考えられます。

一方で、眺望景観を阻害しやすい規模の大きい屋外広告物や資材の野積み、大規模建築物・工作物については、景観への配慮について事業者の協力が必要です。



大神から大山をのぞむ

●例3: 新たな交流

ツインシティのにぎわいや活力を周辺のまちづくりに波及し、新たな生活圏を形成していくためには、ツインシティに新たに住む住民や働く事業者と周辺地域の住民との新たな交流が必要と考えられます。

このため、自治会同士の間での連携や小・中学校、地元の公民館を通じた交流の場づくりや事業者の地域の社会活動への貢献などが望めます。



公民館まつり

V.5 中部地域のまちづくり方針

(1) 中部地域のあらし

●位置・面積

- 中部地域は渋田川、鈴川、金目川の合流部から北方向に扇形に広がる位置にあり、地域の北側は伊勢原市との市境となっています。かつては豊田村^(注)、城島村、岡崎村、金田村に属し、いずれも昭和31年9月に平塚市に編入されました。

注：豊田村は、昭和31年4月に大野町と合併し、大野町として平塚市に同年9月に編入されました。

- 地域の面積は1,380.2haで全市の約20%を占めます。うち豊田地区は307.4ha、城島地区は400.8ha、岡崎地区は372.0ha、金田地区は300.0haです。
- 豊田地区は豊田小学校区、城島地区は城島小学校区、岡崎地区は岡崎小学校区、金田地区は金田小学校区が含まれます。

●人口・土地の利用

- 人口は全市の約12%を占めます。豊田地区は増加、城島地区は減少、岡崎地区は横ばい、金田地区は微増傾向にあります。(平成17年国勢調査)
- 市街化区域^{*}は、地域の約25%を占め、豊田、金田及び岡崎地区の一部に住宅地がまとまってあり、その他は広大な農地が広がっています。
- 金目川沿いには、みどり豊かな住宅地が形成されています。このうち岡崎地区には、台地上に良好な住宅地が形成されています。
- 地域の北側一帯は、小田急小田原線の伊勢原駅に近く、日常の最寄り駅としての利用が比較的多くなっています。

- 平野部に広がる豊かな田園は、神奈川県穀倉地帯ともいわれ、県下第一位の米生産量の多くを



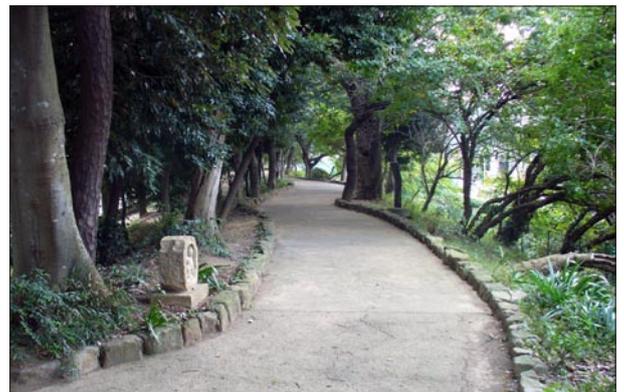
田園風景

この地域が支えています。明治から大正にかけて、大規模な耕地整理が行われ、旧農林省の農業技術研究所や県の農業総合研究所が設けられるほどでした。



●地域の主な資源

- 鈴川を中心に金目川や渋田川の肥沃な水の流れのなかで、川と共に歩んできた歴史が見られ、鈴川の大畑橋周辺では地域住民によるビオトープ^{*}づくりが進められています。また、渋田川は、沿川自治会により植栽と管理が行われています。
- 纏緑道は、地域住民の交流の象徴となっています。
- 農業振興の新たな拠点として、花と緑のふれあい拠点の整備が予定されています。



纏緑道

(2) 中部地域の主な課題

●道路と交通の課題

- ・東西地域間や平塚駅や伊勢原駅への交通ネットワークの充足が課題です。

●住まい環境の課題

- ・城島地区などを始めとする集落地においては、日常生活に必要な生活利便施設が不足しており、また、農業の維持のため、集落環境の向上、農地の多面的機能*の活用などが課題です。

●地域の資源をいかすための課題

- ・花と緑のふれあい拠点の整備効果を高めることが重要で、市内外から多くの利用が見込めるよう一体的な整備と創意工夫のある運営を講じることが課題です。
- ・身近に多くの川と水の流れがあり、これらを地域の自主的なまちづくり活動にいかすことが望まれます。



真土・金目線



金目川サイクリングコース

(3) 中部地域のまちづくりの目標と将来像

まちづくりの目標

- 渋田川・鈴川・金目川をいかした豊かな住まい環境の形成
- 日常生活に必要な施設やサービスが暮らしに溶け込んだまちの形成
- 農業を守り盛りたてるための田園空間の活用

将来像

川と親しむ豊かな住まい環境と 実りある田園が息づくまち

豊かな田園が広がる中部地域は、川辺をいかした交流や生活利便性の向上による充実した暮らしやすい住まい環境のもとで、平塚の農業を支えるまちをめざします。

(4) 中部地域の分野別の方針

① 道路と交通

● 道路一般

- ・相模原大磯線など、未整備となっている都市計画道路や幹線道路の段階的な整備を進めます。
- ・安全で円滑な生活交通の確保のため、歩道の設置、橋りょうの整備や改善など効率的で効果的な道路整備を進めます。

● バス交通

- ・バス交通の円滑な走行や利便性の向上のため、バス停の環境整備などを進めます。また、東西方向や伊勢原方面へのバス網の形成に努めます。

● 歩行者空間、自転車利用環境

- ・歩行者や自転車利用者のため、安全に通行できる空間の確保や交通安全施設^{*}などの環境整備を進めます。

- ・自転車利用環境の向上のため、自転車走行空間の創出や自転車ネットワークの形成に努めます。また、バス停周辺において駐輪場の設置を検討します。



上屋付きのバス停

- ・金目川など川沿いのサイクリングコースは、レクリエーション体験のできるサイクリングコースとして、連続性に配慮した整備を検討します。
- ・入野排水路は、上部利用によりコミュニティ道路^{*}の整備を進めます。

② 住まい環境

● 住宅地

- ・平塚伊勢原線と豊田・岡崎線を中心に広がる住居系市街地や岡崎地区の台地上にある住居系市街地は、戸建てを中心とした低層住宅地として、みどり豊かな居住環境を形成します。

- ・道路などが必要なところは、居住環境や防災性を高めるため、生活道路や下水道施設などの公共施設整備を進めます。

● 近隣商業地または沿道市街地

- ・岡崎地区の大句丸島線沿道や豊田地区の平塚伊勢原線沿道の一部では、地域生活に密着した店舗や事務所などの立地を誘導します。



大句丸島線（岡崎付近）

● 工業地

- ・東豊田工業団地は、地区計画^{*}により工業団地としての良好な環境が形成されているため、その生産環境を維持します。

● 集落地・農地

- ・城島地区の集落地においては、日常生活利便施設の立地の誘導を検討します。
- ・農地は、食料供給や多面的機能^{*}を有するため、これを維持及び保全し、さらに有効利用するため農業振興策を進めると共に、生産基盤の向上に努めます。また、農業への理解を深めるため、市民による体験の場づくりについて検討します。

● 公共公益施設

- ・豊田分庁舎や地区公民館などの公共公益施設は、地域の様々な活動を支える拠点として、誰もがつかいやすいように施設の柔軟な運営と管理に努めます。
- ・花と緑のふれあい拠点は、寺田縄の旧農業総合研究所跡地に「神奈川県立花と緑のふれあいセンター」を整備し、その周辺に「農の体験・交流の場」を配置します。また、多方面からの交通が容易になるよう道路整備を進めます。

③ 景観やみどりと水辺

● 代表的な景観

- ・ 富士山や大山・丹沢の山並みへの眺望を確保し、季節の移ろいと開放感があり、まとまりのある田園景観を維持及び保全します。



田園

- ・ 鈴川や渋田川、金目川は、地域にふさわしい花々や樹木に彩られた河川景観を形成します。

● みどりと水辺空間、ネットワーク

- ・ 田園は、農業生産の場であると共に、様々な生き物のすみかにもなっています。身近なみどりや季節感あふれる風景であり、その多面的機能^{*}を果たすよう保全に努めます。
- ・ 鈴川と板戸川や大根川との合流地点の大畑橋周辺は、自然生態系に配慮したビオトープ^{**}空間として、みどりと水辺のふれあいスポットの形成に努めます。
- ・ 鈴川や渋田川、金目川の川辺は、親水空間をいかし、みどりと水辺のネットワークづくりに努めます。

● 公園や広場

- ・ 身近な公園や広場は、地域ニーズに応じ、また地域住民の参加により、誰もがつかいやすく親しみのある空間づくりを進めます。

(5) 中部地域の資源をいかした魅力づくりの方針

● 花と緑のふれあい拠点をいかす

- ・ 花と緑のふれあい拠点では、暮らしのなかに花やみどりを取り入れる方法を提案すると共に、農業の大切さを学んでもらい農業の振興に寄与する拠点として十分にいかします。
- ・ 周辺の農的景観への配慮、農地の多面的機能の活用（農家と都市住民の多様な接点の創出、大型市民農園、収穫体験農園、憩いを与える場など）、農作物直売、アクセス道路の修景整備、地域住民や市民が主体となるおもてなしのイベントの開催などを進めます。また、拠点を中心とした周遊観光を進め、本市の観光の魅力向上と観光客の増加をめざします。

● 川をテーマとしたまちづくり

- ・ 中部地域は、鈴川を中心に金目川と渋田川に囲まれており、川と共に歩んできた歴史のなかで、川をテーマと

したまちづくり活動が行われているため、こうした活動をさらに増やすと共に、組織同士のつながりを密にし、活動自体の活性化の誘導に努めます。



鈴川・板戸川・大根川の合流地点

中部地域

地域の魅力づくりに向けて ～地域主体の取組みイメージ～

地域のまちづくりの目標と将来像の実現に向けたこれからのまちづくりは、様々な主体が各々の役割を果たす協働の取組みであり、地域自らが行うことが重要です。ここでは、地域の資源をいかした取組みを進めるため、地域主体の取組みイメージの例を示します。

●例1: 田園の中小河川を保全

田園の中小河川においては、野花が咲く土手に沿って、様々な生き物をはぐくむ流れが、青田の海を縫うように続いています。こうした風景をいつまでも残しておくことが望まれます。

このため、地域住民と市との協働により、土手沿いの散歩道を快適なものとし、不法投棄を監視する目を増やしていくことが考えられます。

また、こうした風景の良さを、もっと多くの人に知ってもらうため、広く市民に働きかけることが重要です。



鈴川（鯉のぼり祭り）

●例2: 日常必要な施設の立地のための検討

身近に日常必要な生活利便施設がなく、不便を生じているところがあります。特に車に頼ることが難しい高齢者や子どもにとっては、日々の生活に支障を来すことが心配されます。

施設の立地のためには、まず地域が一体となって、どのような施設をどのようにすれば誘致でき、運営または営業が続けられるのかなどを検討することが考えられます。

また、地域が主体となり自分たちで施設の運営を行う方法も考えられます。



田園と集落（手前が新幹線）

●例3: 農業を盛りたてる

農業の担い手が少なくなっています。消費者と生産者が共に手を携え、地域で農業を守り、盛りたてることが望まれます。

このため、職場から地域に生活の場が戻る団塊世代に農業に多面的に携わってもらうことが考えられます。例えば、農地所有者の協力を得て遊休農地をいかし、花畑や野菜づくりなどを行うことなどです。

また、地域で組織をつくり、ここが主体となって農産物を地産地消する、市などの開催も考えられます。



農地（寺田縄）

V.6 西部地域のまちづくり方針

(1) 西部地域のあらし

●位置・面積

- ・西部地域は小田原厚木道路の西側に位置し、地域界の多くを秦野市・中井町・大磯町との市町境としています。かつては土沢村と金目村に属し、土沢村は昭和31年9月に、金目村は昭和32年10月に平塚市に編入されました。
- ・地域の面積は1,919.9haで全市の約28%を占めます。うち北金目地区は375.2ha、南金目地区は387.3ha、土沢地区は1,157.4haです。
- ・北金目地区はみずほ小学校区、南金目地区は金目小学校区、土沢地区は吉沢小と土屋小学校区が含まれます。

●人口・土地の利用

- ・人口は全市の約8%を占めます。北金目地区と土屋地区は減少、南金目地区はやや減少傾向にあります。
(平成17年国勢調査)
- ・市街化区域^{*}は、地域の約10%を占め、北金目、南金目及び土沢地区の一部に住宅地がまとまってあり、その他は広大な農地と丘陵が占めています。
- ・金目川の水辺から南北に広がる田園のなかに、ゆとりある住宅地が形成されています。
- ・北金目地区は小田急小田原線の東海大学前駅に近く、日常の最寄り駅としての利用が多く、市域を越えた地域生活圏が形成されています。
- ・五領ヶ台地区(めぐみが丘)や土地区画整理事業^{*}が進む真田・北金目地区、真田地区などでは、地区計画^{*}により良好な居住環境の形成が進められています。



住宅地(めぐみが丘)



●地域の主な資源

- ・金目川や里山を中心に「金目川と観音堂」「七国峠・遠藤原」「霧降りの滝・松岩寺」などの平塚八景があり、本市の代表的な景勝地となっています。
- ・東海大学や神奈川大学、県農業技術センターなどの学術機関や研究所が立地しています。
- ・土沢地区を中心とする里山には、本市で最も貴重な自然が残っています。



霧降りの滝

(2) 西部地域の主な課題

● 道路と交通の課題

- ・平塚秦野線や吉沢・土屋線の一部区間では慢性的な渋滞が見られるため、その対応が課題です。また、歩行者や自転車利用者の空間不足が問題となっているところがあります。道路整備と共に交通安全施設*の整備や改善が課題です。

● 住まい環境の課題

- ・人口が減少し、地域社会としての維持が難しくなっている集落があります。日常必要な生活利便施設の充足などが課題です。

● 地域の資源をいかすための課題

- ・平塚八景を中心に地域の資源をつなぎ、観光やレクリエーションの場としていくことが課題です。
- ・市内に2つある大学の存在は貴重で、県農業技術センターも含め、これらがもつ専門性をいかした地域の活性化が望まれます。
- ・農地や里山の荒廃の進む傾向が見られ、保全しながらもいかすための工夫が課題です。



東海大学のケヤキ並木



神奈川大学のイチヨウ並木

(3) 西部地域のまちづくりの目標と将来像

まちづくりの目標

- 恵まれた自然や歴史資産をいかし、地域を広くアピール
- 安心安全の道路と交通の確保による、便利な移動環境の確保
- 住民と大学などとの交流による地域の活性化

将来像

恵まれた自然環境をいかして地域を活性化し、 交流の輪を次世代につなぐまち

先人が大切に守り培ってきた自然や歴史・文化が脈々と息づく西部地域は、住民と大学や都市住民との交流のなかで新たな活気を創出し、地域の貴重な資産を守り、いかし、次世代につなぐまちをめざします。

(4) 西部地域の分野別の方針

① 道路と交通

● 道路一般

- ・ 八幡神社土屋線など、未整備となっている都市計画道路の段階的な整備を進めます。

- ・ 安全で円滑な生活交通の確保のため、吉沢・土屋線、金目・神戸線などは、歩道の設置や道路の新設、橋りょうの整備や改善など、効率的で効果的な道路整備を進めます。



吾妻橋の交通渋滞

- ・ 真田地区及び真田・北金目地区の土地区画整理事業※は、基盤整備と合わせて、その周辺の幹線道路や生活道路などの整備を段階的に進めます。
- ・ 秦野中井インターチェンジアクセス道路は、道路の位置など具体的な計画について検討します。

● バス交通

- ・ バス交通の円滑な走行や利便性の向上のため、バス停の環境整備などを進めます。また、東西方向のバス網の形成に努めます。

● 歩行者空間、自転車利用環境

- ・ 歩行者や自転車利用者のため、安全に通行できる空間の確保や交通安全施設※などの環境整備を進めます。
- ・ 自転車利用環境の向上のため、自転車走行空間の創出や自転車ネットワークの形成に努めます。また、バス停周辺において駐輪場の設置を検討します。

② 住まい環境

● 住宅地

- ・ 土地区画整理事業が進む北金目地区の住居系市街地や金目川の南北に広がる南金目地区の住居系市街地、めぐみが丘は、戸建てを中心とした低層住宅地として、みどり豊かな居住環境を形成します。

- ・ 道路などが必要なところは、居住環境や防災性を高めるため、生活道路や下水道施設などの公共施設整備を進めます。

● 近隣商業地や沿道市街地

- ・ 土地区画整理事業が進む真田・北金目地区や真田地区の中心部、上粕屋南金目線や東海大学前駅真田線、北金目真田線などの沿道の一部、平塚秦野線の金目小学校付近には、地域生活に密着した店舗や事務所などの立地を誘導します。



平塚秦野線の沿道市街地（金目小学校付近）

● 集落地・農地

- ・ 土沢地区の集落地においては、日常必要な生活利便施設の立地の誘導を検討します。
- ・ 農地は、食料供給や多面的機能※を有するため、これを維持及び保全し、さらに有効利用するため農業振興策を進めると共に、生産基盤の向上に努めます。また、農業への理解を深めるため、市民による体験の場づくりについて検討します。

● 公共公益施設

- ・ びわ青少年の家や地区公民館などの公共公益施設は、地域の様々な活動を支える拠点として、誰もがつかいやすいように施設の柔軟な運営と管理に努めます。

③ 景観やみどりと水辺

● 代表的な景観

- ・ 富士山や大山・丹沢の山並みへの眺望を確保し、季節の移ろいと開放感が感じられる、まとまりのある田園や里山景観を維持及び保全します。
- ・ 魅力ある散策ルートの充実など、人と自然がつくり出すみどりや里山景観の魅力や大切さを広めます。
- ・ 金目観音堂を始め、地域の歴史を伝える社寺などを地域のシンボルとして保全します。
- ・ 東海大学と神奈川大学は、ケヤキやイチョウ並木を始め、季節感のある景観を楽しむことのできる文教施設として、その空間をいかせるよう検討します。



金目観音堂

● みどりと水辺空間、ネットワーク

- ・ 田園や里山は、農業生産の場であると共に、様々な生物のすみかにもなっています。身近なみどりや季節感あふれる風景であり、その多面的機能^{*}を果たすよう保全に努めます。
- ・ 金目川沿いの斜面緑地は、貴重なみどりとして保全に努めます。また、金目観音周辺は歴史や文化資源をいかし、みどりと水辺のふれあいスポットの形成に努めます。
- ・ 金目川や座禅川などの川辺は親水空間をいかし、みどりと水辺のネットワークづくりに努めます。

● 公園や広場

- ・ 身近な公園や広場は、地域ニーズに応じ、また地域住民の参加により、誰もがつかいやすく親しみのある空間づくりを進めます。
- ・ 現在、スポーツ広場・多目的広場として利用されている県平塚配水池の上部については、交流やレクリエーションの場としての拠点性をさらに向上させるため、多目的利用の推進に努めます。

(5) 西部地域の資源をいかした魅力づくりの方針

● 地域資源をつなぐ

- ・ 西部地域の平塚八景を始め、びわ青少年の家、スポーツ広場・多目的広場（県平塚配水池の上部利用）、学術機関や研究所などを拠点として、これらをつなぐ散策ルートを充実します。各拠点においては、地域の自然や景観を楽しむ場、環境学習できる場、地元住民との交流の場などの創出について検討します。

● 大学のキャンパスをいかす

- ・ 2つの大学の立地をいかし、キャンパスと地域が相互に空間を提供しあい、学生と地域住民など様々な人の交流を進め、相互に活力を高め合うしくみづくりを検討します。

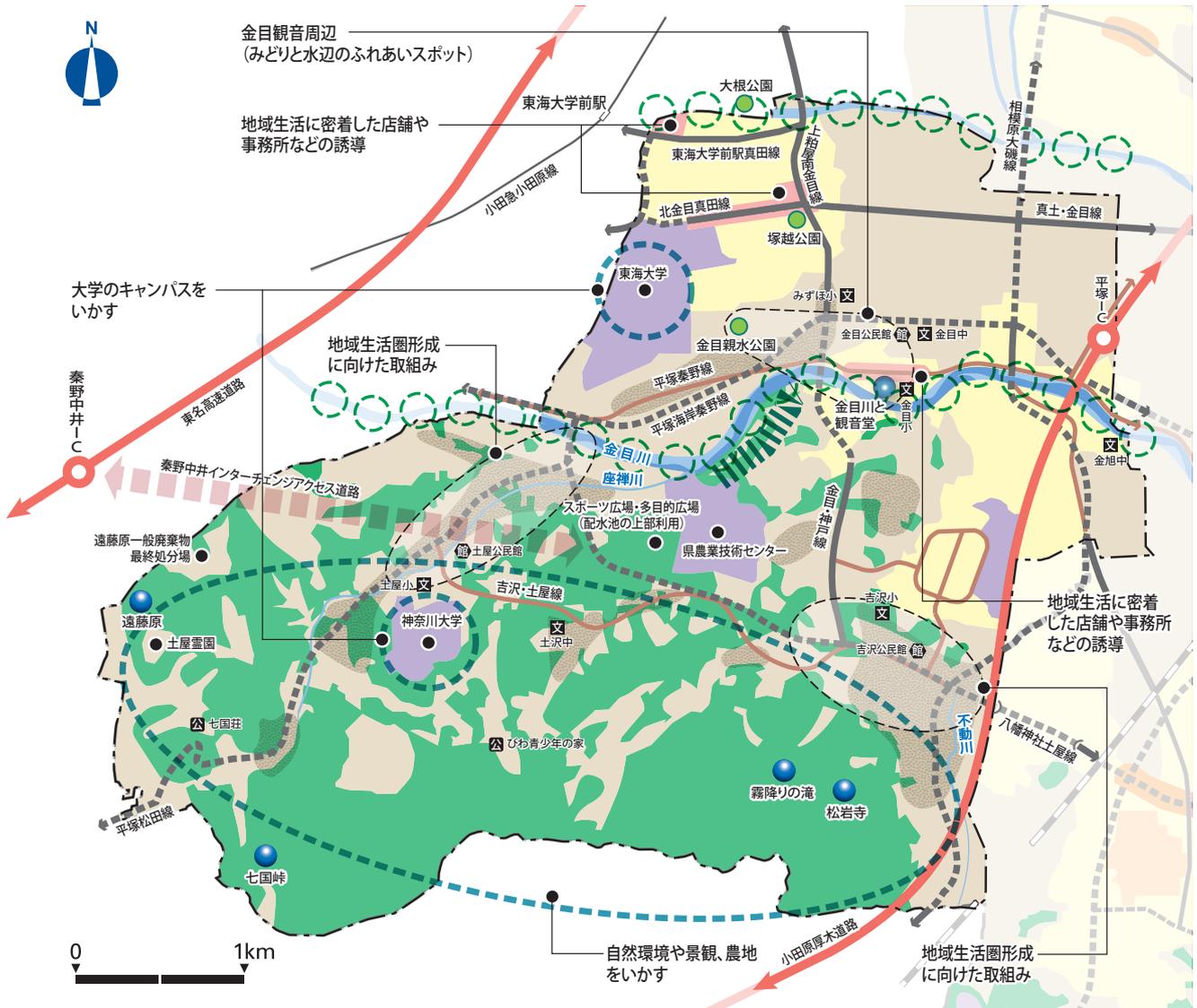
● 自然環境や景観、農地をいかす

- ・ 本市の貴重な資源である西部丘陵地の自然環境や景観、農地などは、様々な角度から地域の活性化につながるよう検討します。



里山の農地

西部地域のまちづくり方針図



住宅地	自動車専用道路	みどり和水辺のネットワーク
近隣商業地または沿道市街地	幹線道路	みどり和水辺の活用拠点
研究・流通業務地	幹線道路(未整備)	斜面緑地
農地	補助幹線道路	平塚八景
主な集落地	近隣公園	位置など具体的な計画について検討する道路
緑地・自然系用地	主な公共公益施設	
	学校	
	公民館	

西部地域

地域の魅力づくりに向けて ～地域主体の取組みイメージ～

地域のまちづくりの目標と将来像の実現に向けたこれからのまちづくりは、様々な主体が各々の役割を果たす協働の取組みであり、地域自らが行うことが重要です。ここでは、地域の資源をいかした取組みを進めるため、地域主体の取組みイメージの例を示します。

●例1: 自然資産を広くアピール

本市で最も貴重な自然資産を広域に向けてアピールし、地域活性化に役立てることが望めます。

例えば、市内外から里山に愛着をもつ方が集まって古民家や谷戸田の保存、散策ルートの整備と管理などを検討することが考えられます。

アピールの方法や組織形態、活動内容や運営方法などが重要となりますが、地域住民や大学が主体となり、市と研究しながら詳細を詰めていくといった方法があります。



遠藤原の富士山



吉沢・土屋線

●例2: 自分たちのバスの運行

主な施設間の距離が長いので、交通手段の選択に乏しい高齢者や子どもの移動が難しくなりつつあります。

例えば、地域で組織化を行い市の支援のもとに運行プランを作成し、事業者などの協力を得て車両を確保し地域主体で運行します。運転士も自分たちで確保し交代で運転を行います。

自分たちのバスとすることを通じて、地域社会の維持と交流に寄与することが期待されます。

●例3: 三者交流による地域活性化

西部地域の活性化のため、地域内にある2つの大学を積極的にいかにすることが望めます。

このため地域住民・農業従事者・大学の三者が、地域の活性化のため勉強会を行い、プランを作成し、そのプランに基づき、様々な事業や活動を行うことが考えられます。学生の参加を促すことが良いでしょう。

大学がもつ専門知識や学生の柔軟な発想力や行動力と地域住民の知恵や地域資源を融合させた、活力ある工夫による活性化が期待されます。



地域について住民同士で検討

V.7 旭地域のまちづくり方針

(1) 旭地域のあらし

●位置・面積

- ・旭地域は湘南平の北側に位置し、東の金目川、西の小田原厚木道路に囲まれています。かつては旭村に属し、昭和29年7月に平塚市に編入されました。
- ・地域の面積は646.5haで全市の約10%を占めます。うち旭北地区は304.5ha、旭南地区は342.0haです。
- ・旭北地区は旭小と松延小学校区、旭南地区は山下小と勝原小学校区が含まれます。

●人口・土地の利用

- ・人口は全市の約18%を占めます。旭北地区は増加、旭南地区は減少傾向にあります。（平成17年国勢調査）
- ・市街化区域^{*}は、地域の約64%を占め、住宅団地を中心に成熟した雰囲気のみちとなっています。
- ・東海道新幹線の南側は、湘南平のふもとに住宅地が広がっており、新幹線の北側は、平成8年に整備された日向岡の住宅地を中心に、地区計画^{*}などにより良好な居住環境が形成されているほか、金目川の水辺から西側に田園が広がっています。



湘南平



●地域の主な資源

- ・本市と大磯町にまたがり約141haの高麗山公園があり、湘南平、子供の森ゾーンなどを開設しています。湘南平からの眺望は、本市をとりまく自然地形や市街地の特徴を一望することができ、昼間だけでなく、夜景も多くの人に楽しまれています。また、桜の名所としても市民に親しまれています。
- ・八幡神社土屋線の商店街を中心に、コンパクトなまちが形成されています。
- ・環境美化の進んだ河内川や纏緑道は、地域住民の交流の象徴となっています。
- ・市内においては旭地域が金目川サイクリングコースの起点ともなり、サイクリングを楽しむ人でにぎわいます。金目川サイクリングコースは、日本で初めてのサイクリング用道路として昭和42年10月10日に開通しました。



金目川

(2) 旭地域の主な課題

●道路と交通の課題

- ・平塚駅への交通ネットワークや地域間をつなぐ交通ネットワークの不足に対応することが課題です。

●住まい環境の課題

- ・比較的多く残っている宅地化農地^{*}などで、戸建て住宅や中高層マンションの立地が進行しています。既存の良好な居住環境の保全や優良な農地の維持が課題です。

●地域の資源をいかすための課題

- ・八幡神社土屋線の沿道を中心に南北に広がる住宅地は、そのコンパクト性をいかしたまちづくりが望まれます。
- ・自転車利用率の高い本市の特性を踏まえ、金目川サイクリングコースをいかしたスポーツ交流が望まれます。
- ・河内川の地域住民による環境美化活動を、沿川でさらに広めていくことが望まれます。



湘南平から高村団地周辺の街並みをのぞむ



金目川サイクリングコース

(3) 旭地域のまちづくりの目標と将来像

まちづくりの目標

- 湘南平の魅力づくりや金目川の活用
- 市民交流をいかした暮らしに楽しみのあるまちの形成
- 商店街を中心に歩いて暮らせるまちの形成

将来像

湘南平と金目川の自然につつまれて、 魅力ある商店街と豊かな暮らしのあるまち

湘南平のふもとに広がる旭地域は、桜の金目川や住民の活動が支える纏緑道、アジサイの河内川など市民交流が盛んで、にぎやかな商店街を中心に歩いて暮らせる楽しいまちをめざします。

(4) 旭地域の分野別の方針

① 道路と交通

● 道路一般

- ・平塚山下線など、未整備となっている都市計画道路の段階的な整備を進めます。



平塚山下線（高根交差点付近）

- ・安全で円滑な生活交通の確保のため、歩道の設置など効率的で効果的な道路整備を進めます。

● バス交通

- ・バス交通の円滑な走行や利便性の向上のため、バス停の環境整備や道路整備などを進めます。

● 歩行者空間、自転車利用環境

- ・歩行者や自転車利用者のため、安全に通行できる空間の確保や交通安全施設^{*}などの環境整備を進めます。
- ・自転車利用環境の向上のため、自転車走行空間の創出や自転車ネットワークの形成に努めます。また、バス停周辺において駐輪場の設置を検討します。

② 住まい環境

● 住宅地

- ・地域全体に大きく広がる住居系市街地では、戸建てを中心とした低層住宅地として、みどり豊かな居住環境を形成します。

- ・既存の共同住宅が立地する山下団地や高村団地は、中高層住宅地として周辺の住宅地や農地と調和する景観への配慮や緑化を誘導し、良好な居住環境を形成します。

- ・道路などが必要なところは、居住環境や防災性を高めるため、生活道路や下水道施設などの公共施設整備を進めます。

● 近隣商業地または沿道市街地

- ・八幡神社土屋線沿道の商店街においては、地域生活に密着した店舗や事務所などの立地を誘導します。

● 農地

- ・農地は、食料供給や多面的機能^{*}を有するため、これを維持及び保全し、さらに有効利用するため農業振興策を進めると共に、生産基盤の向上に努めます。また、農業への理解を深めるため、市民による体験の場づくりについて検討します。

● 公共公益施設

- ・山城子どもの家や西図書館、地区公民館などの公共公益施設は、地域の様々な活動を支える拠点として、誰もがつかいやすいように施設の柔軟な運営と管理に努めます。



山城子どもの家

③ 景観やみどりと水辺

● 代表的な景観

- ・高麗山と湘南平は、平塚らしさを特徴づける稜線の姿や、市内を一望できる貴重な眺望地点として維持及び保全します。



湘南平（手前の丘陵地）

- ・湘南平を始めとする高麗山公園は、みどりとふれあいをテーマに、交流やレクリエーションのなかで満喫

できる拠点とし、本市全体及び旭地域の象徴となるよう魅力づくりに努めます。

- ・金目川などの河川は、地域にふさわしい花々や樹木に彩られた河川景観を形成します。

● みどりと水辺空間、ネットワーク

- ・高麗山のふもとの斜面緑地は、貴重なみどりとして保全に努めます。
- ・環境美化の進んだ河内川においては、みどりと水辺のふれあいスポットとして維持します。
- ・金目川の川辺においては親水空間をいかし、みどりと水辺のネットワークづくりに努めます。

● 公園や広場

- ・身近な公園や広場は、地域ニーズに応じ、また地域住民の参加により、誰もがつかいやすく、親しみのある空間づくりを進めます。

(5) 旭地域の資源をいかした魅力づくりの方針

● 歩いて暮らせるまちづくり*

- ・旭地域の一部で、東海道新幹線と金目川と高麗山などに囲まれた市街地は、八幡神社土屋線沿道の商店街を中心におおむね1km圏に密度の高い住宅地が形成され、さらに公共公益施設などがまとまっています。このため、このコンパクト性をいかし、少子高齢化社会への移行を踏まえた、歩いて暮らせるまちづくり（地域生活圏の形成）のモデルを検討します。

● 金目川サイクリングコースの充実

- ・金目川サイクリングコースを、スポーツ交流やレクリエーション体験のできるサイクリングコースとして充実し、自転車走行の連続性に配慮した整備を検討します。

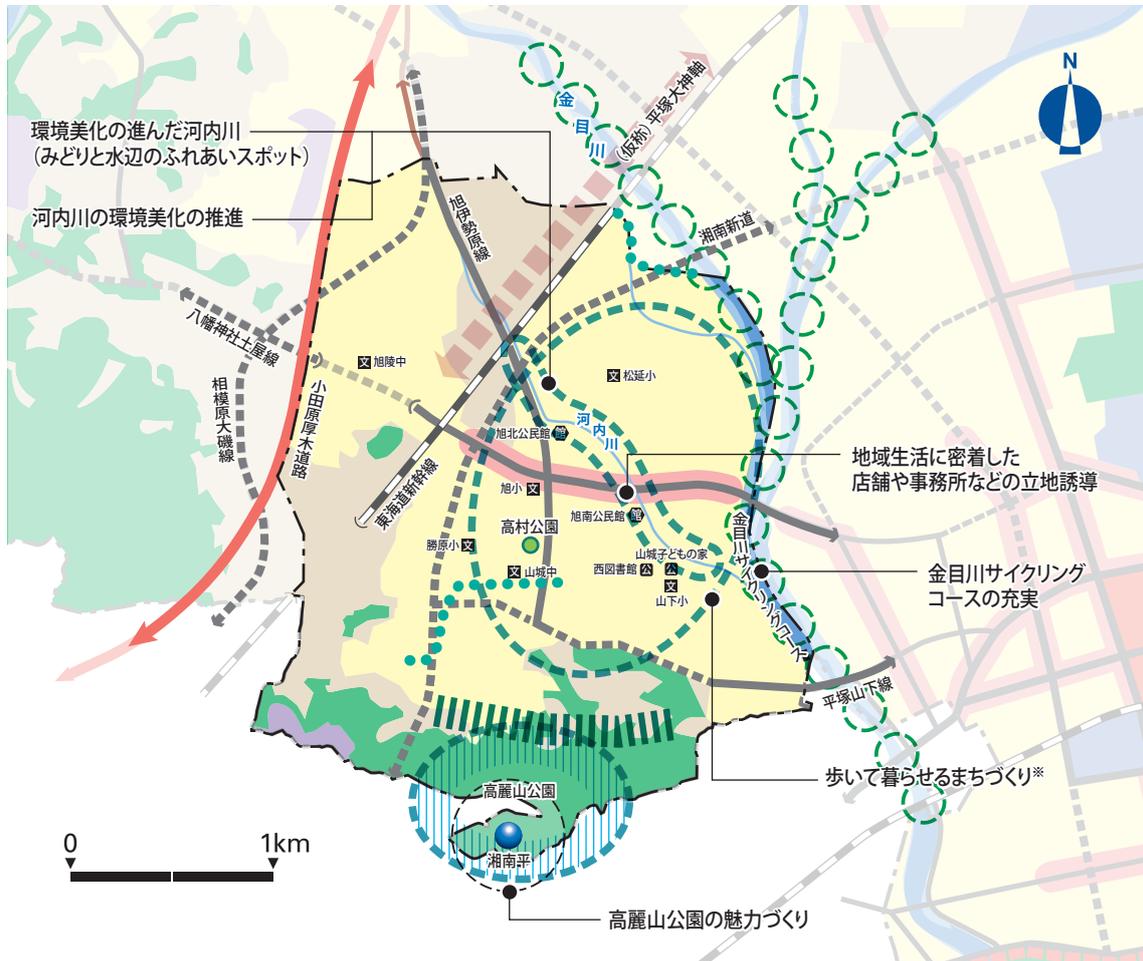
● 河内川環境美化の推進

- ・河内川では、地域の住民や学校の子供たちの活動によるアジサイの植栽、草刈、清掃作業や環境啓発活動が行われ、環境美化が進みました。親水施設の設置やアジサイ祭りの開催など、地域住民の交流による取組みを支援すると共に、みどりと水辺のふれあいスポットとして維持します。



河内川のアジサイ

旭地域のまちづくり方針図



住宅地	自動車専用道路	みどりと水辺のネットワーク
近隣商業地または沿道市街地	幹線道路	みどりと水辺の活用拠点
研究・流通業務地	幹線道路(未整備)	みどりのふれあい拠点
農地	コミュニティ道路*	斜面緑地
緑地・自然系用地	近隣公園	平塚八景
	主な公共公益施設	位置など具体的な計画について検討する道路
	学校	
	公民館	

旭地域

地域の魅力づくりに向けて ～地域主体の取組みイメージ～

地域のまちづくりの目標と将来像の実現に向けたこれからのまちづくりは、様々な主体が各々の役割を果たす協働の取組みであり、地域自らが行うことが重要です。ここでは、地域の資源をいかした取組みを進めるため、地域主体の取組みイメージの例を示します。

●例1: 湘南平ふもとの斜面緑地の保全

旭地域においては、みどりの映える斜面林が湘南平のふもとで街並みの背景となって連なっています。こうした恵まれた自然資産である斜面緑地を保全することが望まれます。

市では保全樹・保全樹林の指定を進める一方で、地域においては、ボランティア団体や自治会による管理や下草刈りなどが考えられます。

このほか、基金の設置やトラスト制度の活用により、広く市民や事業者の協力を得て保全していくことが考えられます。



高麗山と金目川



金目川サイクリングコース

●例2: サイクリングによるスポーツ交流

金目川サイクリングコースをいかし、自転車と交流をテーマにした市民活動が望まれます。

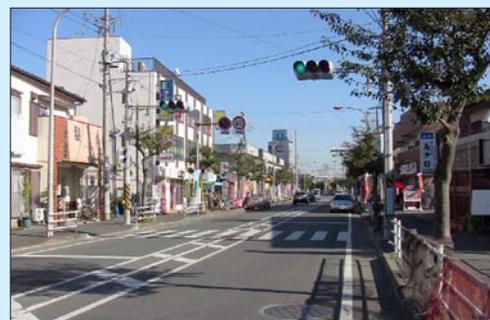
旭地域に拠点を立て、サイクリングコースを介して市内各地域へサイクリングし、スポーツ交流を進めることが考えられます。拠点においては自転車の貸し出しや安全な走行、交通法規、点検などについての講習会を開催することなどが考えられます。

実現のためには、関係機関や事業者の協力のもとに、運営主体となる組織の設立が望まれます。

●例3: みんなが歩ける環境づくり

みんなができるだけ車に依存せず、快適に歩ける環境をつくることが望まれます。

商店街の一角に、井戸端会議ができる場所など人のたまる空間をつくと、そこは多くの人々が交流する場となり、商店街に様々な施設の立地が期待できます。商店街へのアクセス道路を歩行者や自転車利用者のための空間に再編すると、まちを体感できる歩ける環境となり、様々な魅力の発見につながります。



旭地域の中心にある商店街

